平成28年熊本地震にかかるアンケート調査

報告書

調査期間:平成29年6月5日~19日

対象者: 2,000 世帯回答数: 1,057 世帯回答率: 52.9%

	送付数	送付割合(%)	回収数	回答率 (%)	回答割合(%)	※り災証明 発行割合(%)
全壊	89	4.5	54	60.7	5.1	4.3
大規模半壊	134	6.7	69	51.5	6.5	6.8
半壊	591	29.6	328	55.5	31.0	29.1
一部損壊	1,186	59.3	597	50.3	56.5	59.8
無回答			9		0.9	
合 計	2,000	100.0	1,057	52.9	100.0	100.0

※り災証明発行割合は、平成29年6月30日時点における割合

(参考) 6月30日時点のり災証明発行数132,148件(「損害なし」を除く発行数)

平成29年10月 熊本市政策局

目 次

第1章	. 調査の概要	1
1. 超	函旨	1
2. 罰	間査対象者	1
3. 🗊	間查方法	1
4.	回収率	1
5. 訓	間査結果利用上の注意	1
6. È	Eな回答の結果について	2
(1)	住宅の再建費用(り災証明書のり災区分別)	2
(2)	将来、元の住所に戻って住む予定(前回調査との比較)	2
(3)	被災者の住宅再建の進捗状況(前回調査との比較)	3
(4)	住宅再建に目途が立たない要因(前回調査との比較)	3
(5)	住宅再建に必要な支援・生活再建に必要な支援(前回調査との比較)	4
(6)	必要な支援情報の取得(り災証明書のり災区分別)	5
(7)	宅地の被害状況・修復工事の実施の有無	6
第2章	. 調査の結果	7
1. 0	『自身(回答者様)のことについて	7
(1)	性別	7
(2)	年齢	8
(3)	職業	9
(4)	世帯年収	10
(5)	被災時の世帯人数	11
(6)	被災時の居住区	12
2. 初	皮災状況について	13
(1)	り災証明書のり災区分	13
(2)	名地の被害状況	15
(3)	宅地被害の住宅への影響	18
(4)	宅地の修復工事の実施の有無	19
(5)	被災時に住んでいた住居の種類2	
(6)	現在の住まい	
(7)	現在住んでいる住居の種類	
(8)	将来、元の住所に戻って住む予定2	
3. 俊	津康状態について	
(1)	現在の健康状態	
	かかりつけの医療機関や相談先の有無	
4.	う後のお住まいについて	
(1)	住宅の再建状況	32
(2)	住宅の再建方法 (36

(3)	住宅の再建費用	38
(4)	住宅の再建のめどが立たない理由	43
(5)	建替え、補修、住み替え等に要する資金源	45
5. 公	的支援制度の利用状況	47
(1)	必要な支援情報の取得	47
(2)	支援制度の認知媒体	49
6. 今	後必要な支援について	51
(1)	住宅再建に必要な支援	51
(2)	住宅再建以外で被災以前の生活に戻るのに必要な支援等	54
7. そ	の他自由意見	57
第3章.	資料編	60

第1章.調査の概要

1. 趣旨

発災後1年2ヶ月が経過し、各々の被災者においては、各種支援制度の活用などにより生活や住宅の再建に一定のめどが立った世帯がある一方で、仮設住宅(みなし仮設を含む。以下同じ。)に入居している世帯や被災した住宅で生活している世帯の中には、今後の恒久的な住まい確保等について、ようやく検討を始めた世帯やまだ手をつけていない世帯もあるものと思われる。

このように仮設住宅等から恒久的な住宅再建・生活再建へとフェーズが移行していく中で、定期的に 被災者の状況を的確に把握する必要がある。

そこで、被災者台帳を元に下記のとおり被災者へのアンケート調査を実施し、再建の進捗状況や再建の課題を把握することで、今後の支援策を検討するための基礎資料とする。

2. 調査対象者

【調査対象者】り災証明書発行者(一部損壊を含めたすべてのり災区分) ※回答者は世帯主又は生計維持者

【調 査 数】2,000世帯(無作為抽出による)

内訳: 全壊 89(4.5%)、大規模半壊 134(6.7%) 半壊 591(29.6%)、一部損壊 1,186(59.3%)

3. 調查方法

郵送による調査票の配付・回収

4. 回収率

52.9%(1,057世帯)

5. 調査結果利用上の注意

- ・回答は、原則として各質問の調査数を基数とした百分率(%)で表し、少数第2位を四捨五入している。このため百分率の合計が100%にならない場合がある。また、2つ以上の回答ができる複数回答の質問では、回答比率の割合が100%を超える場合がある。
- ・ 図表中の選択肢表現は、調査票の回答選択肢を短縮して表記している場合がある。
- ・図表中には、回答者数が非常に少ない場合がある。このような場合には、回答比率の数字が動きやすく、厳密な比較をすることが難しいので、回答傾向を把握する程度になる。
- ・図表中の今回調査とは今回実施した調査結果(平成29年6月実施)のことである。前回調査とは平成28年9月から10月にかけて行った調査のことである。

6. 主な回答の結果について

(1) 住宅の再建費用(り災証明書のり災区分別)(問19)

図表 住宅の再建費用【り災証明書のり災区分別】

		平均金額	頁(万円)	100万円起	習割合(%)	
		今回調査	前回調査	今回調査	前回調査	
全体		266	382	21.8	21.4	
全	体(除・無回答)	267	385	21.9	21.5	
	全壊	1,589	1,219	29.7	22.4	
	大規模半壊	1,010	1,784	28.9	36.9	
	半壊	585	842	35.6	32.1	
	一部損壊	53	68	12.9	13.5	

費用の平均額は、<u>被害の程度が大きくなるほ</u> ど高くなっている。

全壊の平均は今回調査の方が上回っている が、それ以外のり災区分では前回調査の方が平均を上回っている。

※全体(除・無回答)は、り災証明書のり災区分が無回答のものを除いたものである。

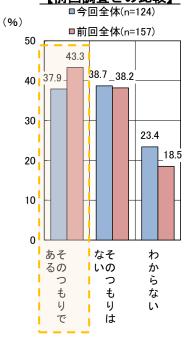
(2) 将来、元の住所に戻って住む予定(前回調査との比較)(問12・問14)

図表 現在の住まい【前回調査との比較】

□今回全体(n=1.047) (%) ■前回全体(n=1,086) 100 84.5 83.7 80 60 40 15.5 _16.3 20 に被 に被 住災 住災 ん時 ん時 でと でと い別 い同 るの 住 住 居

図表 将来、元の住所に戻って住む予定

【前回調査との比較】



■現在の住まい【前回調査との比較】

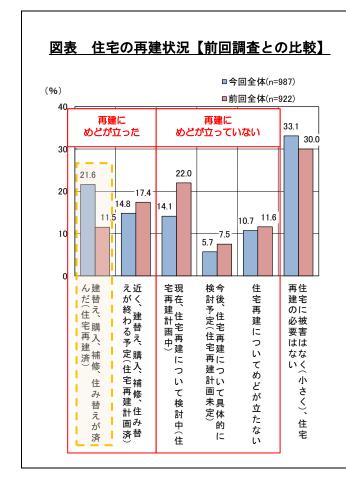
今回調査では「被災時と別の住居に住んでいる」は15.5%で、<u>前回調査と大きな違いはみられない。</u>前回調査のときと変わらず、慣れない環境下での生活を余儀なくされている人がいることがうかがえる。

■将来、元の住所に戻って住む予定【前回調査との比較】

今回調査では「そのつもりである」は 37.9%で、<u>前回調査より 5.4 ポイント減少している。</u> 今回調査では「わからない」は 23.4%で、<u>前回調査より 4.9 ポイント増加している。</u>

将来、元の住所に戻るつもりは減少し、わからないが増加していることにより、元の住所で暮ら すかどうか悩んでいる傾向がややあると考えられる。

(3) 被災者の住宅再建の進捗状況(前回調査との比較)(問17)



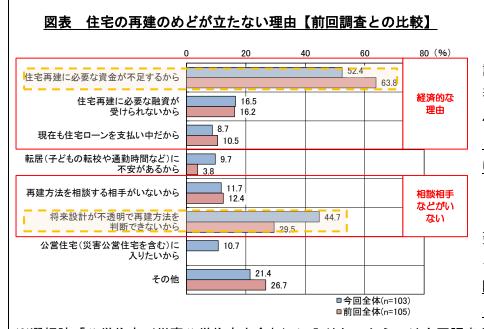
今回調査では「建替え、購入、補修、住み替えが済んだ(住宅再建済)」は21.6%で、前回より10.1ポイント増加している。

今回調査では『再建にめどが立った』世帯は 36.4%で、<u>前回より 7.5 ポイント増加し</u>ている。

今回調査では『再建にめどが立っていない』 世帯は30.5%で、前回調査より10.6ポイン ト減少している。

前回調査のときと比べて住宅再建が進んでいると考えられるが、いまだに3割の世帯でめどが立っていない。

(4) 住宅再建に目途が立たない要因(前回調査との比較)(問20)

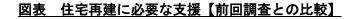


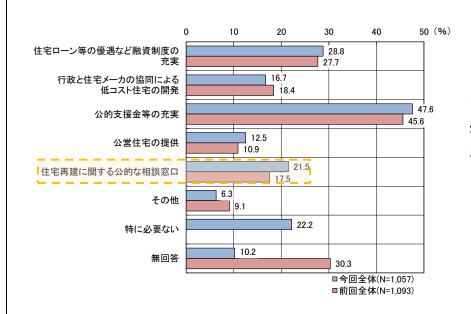
今回調査では「将来設計が不透明で再建方法を判断できないから」は44.7%で、前回調査より15.2 ポイント増加している。

今回調査では「住宅再建に必要な資金が不足するから」は52.4%で、<u>前</u>回調査より11.4 ポイント減少している。

※選択肢「公営住宅(災害公営住宅を含む)に入りたいから」は今回調査から追加

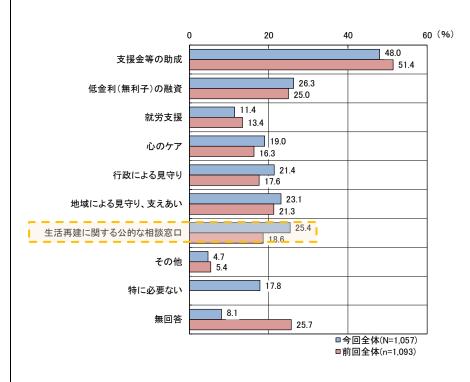
(5) 住宅再建に必要な支援・生活再建に必要な支援(前回調査との比較) (問 24・問 25)





今回調査では「住宅再建に関する公的な相談窓口」は21.5%で、前回調査より4.0 ポイント増加している。

図表 住宅再建以外で被災以前の生活に戻るのに必要な支援等 【前回調査との比較】



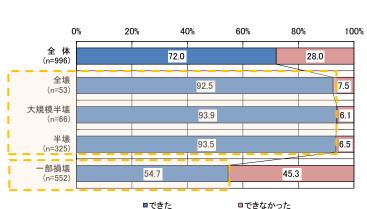
今回調査では「生活再建 に関する公的な相談窓口」 は 25.4%で、前回調査より 6.8 ポイント増加してい る。

住宅再建、生活再建とも に公的な相談窓口を必要と する人が前回調査のときよ りも多くなっている。

現在も各総合相談窓口を 開設しているが、引き続き 支援が必要である。

※前回調査では「特に必要ない」の選択肢がなかったため、特に必要ない方は無回答となっている可能性がある。そのため、上記では無回答を含めて比較を行っている。

(6) 必要な支援情報の取得(り災証明書のり災区分別)(問22)



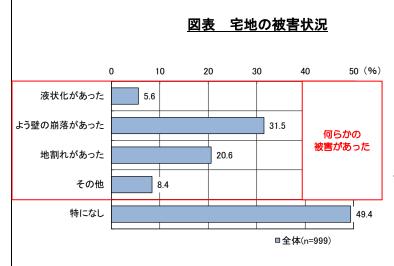
図表 必要な支援情報の取得【り災証明書のり災区分別】

半壊以上は「できた」の割合が93%前後と高い水準であるが、<u>一部損壊では「できなかった」</u> の割合が5割弱となっている。

一部損壊世帯は、非課税世帯・ひとり親世帯への災害義援金などのように、一部損壊のり災証明 書以外にも他の条件を付されている場合があるなど、一部損壊の認定のみで受けられる支援が少ないことから自身に必要な情報としては得られないという回答になっているものと考えられる。

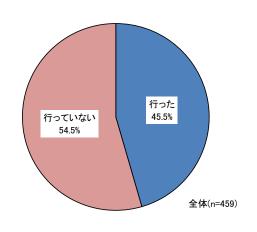
しかし、受援できる支援がある場合は、ほとんどの人が情報を取得できていると考えられる。

(7) 宅地の被害状況・修復工事の実施の有無(問8・問10)



「よう壁の崩落があった」(31.5%)、「地割れがあった」(20.6%) と続いており、「液状化があった」「その他」を加えて、<u>約半数が『何らかの被害があった』と回答している。</u>

図表 宅地の修復工事の実施の有無



「行っていない」の回答が 54.5%、 「行った」の回答が 45.5%となってい る。

実際に修復工事を行った世帯は、5割弱にとどまっており、引き続き宅地修復の支援を行い、再建を促進していく必要がある。

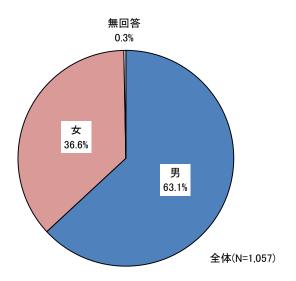
第2章. 調査の結果

1. ご自身(回答者様)のことについて

(1)性別

問1 あなたの性別を教えてください。

図表 性別



	選択肢	回答数	割合(%) 含·無回答
т-	男	667	63.1
2	女	387	36.6
	無回答	3	0.3
	合 計	1,057	100.0

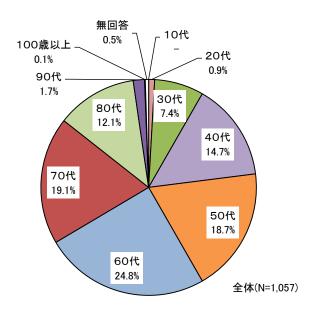
【集計分析】

性別は、「男」の回答が63.1%、「女」の回答が36.6%となっている。

(2)年齢

問2 あなたの年齢を教えてください。

図表 年齢



	選択肢	回答数	割合(%)含・無回答
1	10代	0	1
2	20代	10	0.9
3	30代	78	7.4
4	40代	155	14.7
5	50代	198	18.7
6	60代	262	24.8
7	70代	202	19.1
8	80代	128	12.1
9	90代	18	1.7
10	100歳以上	1	0.1
	無回答	5	0.5
	合 計	1,057	100.0

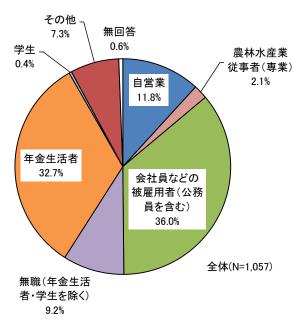
【集計分析】

年齢は、「60代」の回答が 24.8%と最も高く、「70代」(19.1%)、「50代」(18.7%) と続いている。

(3)職業

問3 あなたの現在の職業を教えてください。

図表 職業



	選択肢	回答数	割合(%) 含·無回答
1	自営業	125	11.8
2	農林水産業従事者 (専業)	22	2.1
3	会社員などの被雇用者(公務員を含む)	380	36.0
4	無職(年金生活者・学生を除く)	97	9.2
5	年金生活者	346	32.7
6	学生	4	0.4
7	その他	77	7.3
	無回答	6	0.6
	合 計	1,057	100.0

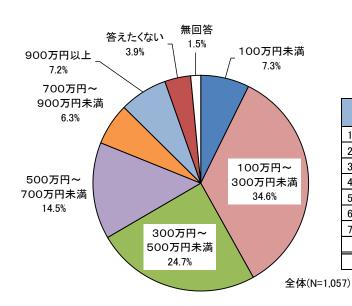
【集計分析】

職業は、「会社員などの被雇用者(公務員を含む)」の回答が36.0%と最も高く、「年金生活者」(32.7%)、「自営業」(11.8%)と続いている。

(4)世帯年収

問4 現在の世帯全員の合計年収を教えてください。(見込額・概算額で結構です。)

図表 世帯年収



	選択肢	回答数	割合(%) 含·無回答
1	100万円未満	77	7.3
2	100万円~300万円未満	366	34.6
3	300万円~500万円未満	261	24.7
4	500万円~700万円未満	153	14.5
5	700万円~900万円未満	67	6.3
6	900万円以上	76	7.2
7	答えたくない	41	3.9
	無回答	16	1.5
	合 計	1,057	100.0

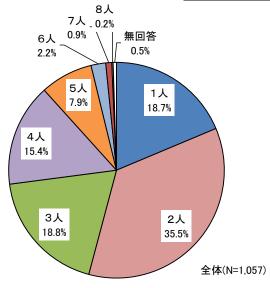
【集計分析】

世帯年収は、「100万円~300万円未満」の回答が34.6%と最も高く、「300万円~500万円未満」(24.7%)、「500万円~700万円未満」(14.5%)と続いている。

(5) 被災時の世帯人数

問5 被災時の世帯人数を教えてください。

図表 被災時の世帯人数



	選択肢	回答数	割合(%)含・無回答
1	1人	198	18.7
2	2人	375	35.5
3	3人	199	18.8
4	4 人	163	15.4
5	5人	83	7.9
6	6人	23	2.2
7	7人	9	0.9
8	8人	2	0.2
	無回答	5	0.5
	合 計	1,057	100.0

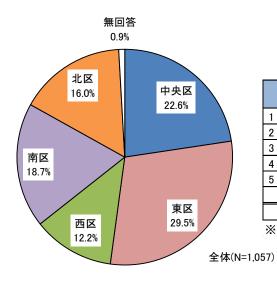
【集計分析】

被災時の世帯人数は、「2人」の回答が35.5%と最も高く、「3人」(18.8%)、「1人」(18.7%) と続いている。

(6) 被災時の居住区

問6 被災時のお住まいの区はどちらですか。

図表 被災時の居住区



	選択肢	回答数	割合(%)含・無回答	割合(%)除・無回答	※実際の 世帯割合
1	中央区	239	22.6	22.8	30.3
2	東区	312	29.5	29.8	24.9
3	西区	129	12.2	12.3	12.3
4	南区	198	18.7	18.9	15.1
5	北区	169	16.0	16.1	17.5
	無回答	10	0.9		
	合 計	1,057	100.0	100.0	100.0

※平成28年4月1日現在の熊本市推計人口による

【集計分析】

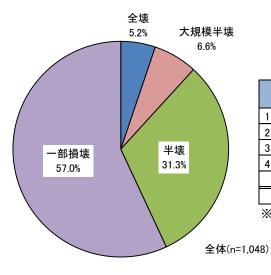
被災時の居住区は、「東区」の回答が29.5%と最も高く、「中央区」(22.6%)、「南区」(18.7%) と続いている。

2. 被災状況について

(1)り災証明書のり災区分

問7 住居のり災の程度を教えてください。(り災証明書のり災区分)

図表 り災証明書のり災区分



	選択肢	回答数	割合(%)含・無回答	割合(%)除・無回答	※り災証明 発行割合
1	全壊	54	5.1	5.2	4.3
2	大規模半壊	69	6.5	6.6	6.8
3	半壊	328	31.0	31.3	29.1
4	一部損壊	597	56.5	57.0	59.8
	無回答	9	0.9		
	合 計	1,057	100.0	100.0	100.0

[※]り災証明発行割合は、平成29年6月30日現在。

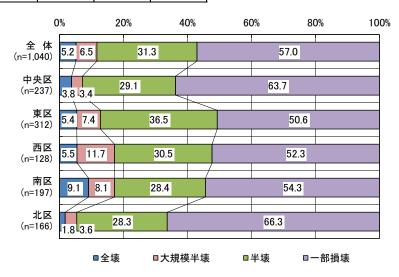
【集計分析】

り災証明書のり災区分は、「一部損壊」の回答が 57.0%と最も高く、「半壊」(31.3%)、「大規模半壊」(6.6%)と続いている。

図表 り災証明書のり災区分【被災時の居住区別】

		全 体 中央区 東区		区	西区				
	選択肢	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除・無回答
1	全壊	54	5.2	9	3.8	17	5.4	7	5.5
2	大規模半壊	68	6.5	8	3.4	23	7.4	15	11.7
3	半壊	325	31.3	69	29.1	114	36.5	39	30.5
4	一部損壊	593	57.0	151	63.7	158	50.6	67	52.3
	無回答	7		2		0		1	
	合 計	1,047	100.0	239	100.0	312	100.0	129	100.0

		南	区	北区		
	選択肢	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除・無回答	
1	全壊	18	9.1	3	1.8	
2	大規模半壊	16	8.1	6	3.6	
3	半壊	56	28.4	47	28.3	
4	一部損壊	107	54.3	110	66.3	
	無回答	1		3		
	合 計	198	100.0	169	100.0	



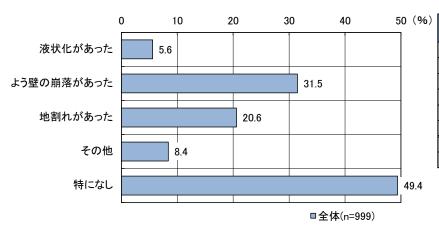
【集計分析】

被災時の居住区別にみると、南区では「全壊」の割合が 1 割程度となっており、他の被災時の居住区と比べてやや高くなっている。

(2) 宅地の被害状況

問8 宅地の被害状況を教えてください。(複数回答可)

図表 宅地の被害状況



	選択肢	回答数	割合(%)無回答含	割合(%) 無回答除
1	液状化があった	56	5.3	5.6
2	よう壁の崩落があった	315	29.8	31.5
3	地割れがあった	206	19.5	20.6
4	その他	84	7.9	8.4
5	特になし	494	46.7	49.4
	無回答	58	5.5	
	回答数合計	1,213		
	回答者数	1,057		

【「その他」主な意見】

●地盤沈下:17件

●陥没:**9 件**

●宅地以外の地割れ:8件 ●ひび割れ:7件

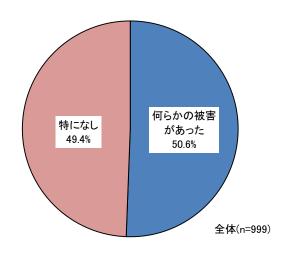
● 亀裂:7件

●傾き:4件

●地盤の緩み:3件

●その他:10件

図表 宅地の被害状況【被害の有無】



	選択肢	回答数	割合(%) 含•無回答	割合(%)除・無回答
1	何らかの被害があった	505	47.8	50.6
2	特になし	494	46.7	49.4
	無回答	58	5.5	
	合 計	1,057	100.0	100.0

※『何らかの被害があった』は「液状化があった」と「よう壁の崩落があった」と「地割れがあった」 と「その他」のいずれかに回答した方

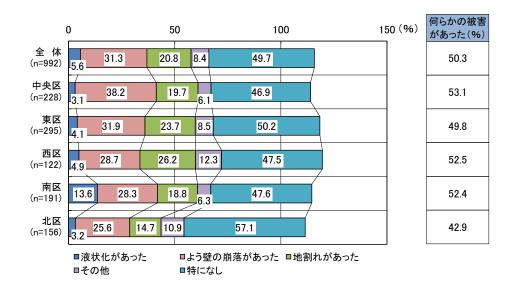
【集計分析】

宅地の被害状況は、「よう壁の崩落があった」(31.5%)、「地割れがあった」(20.6%)と続いて おり、「液状化があった」「その他」を加えて、約半数が『何らかの被害があった』と回答している。

図表 宅地の被害状況【被災時の居住区別】

		全 体		中央区		東区		西区	
	選択肢	回答数	割合(%) 除•無回答	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除·無回答	回答数	割合(%) 除•無回答
1	液状化があった	56	5.6	7	3.1	12	4.1	6	4.9
2	よう壁の崩落があった	310	31.3	87	38.2	94	31.9	35	28.7
3	地割れがあった	206	20.8	45	19.7	70	23.7	32	26.2
4	その他	83	8.4	14	6.1	25	8.5	15	12.3
5	特になし	493	49.7	107	46.9	148	50.2	58	47.5
	無回答	55		11		17		7	
	回答数合計	1,203		271		366		153	
	回答者数	1,047		239		312		129	

		南	区	北	区
	選択肢	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除・無回答
1	液状化があった	26	13.6	5	3.2
2	よう壁の崩落があった	54	28.3	40	25.6
3	地割れがあった	36	18.8	23	14.7
4	その他	12	6.3	17	10.9
5	特になし	91	47.6	89	57.1
	無回答	7		13	
	回答数合計	226		187	
	回答者数	198		169	



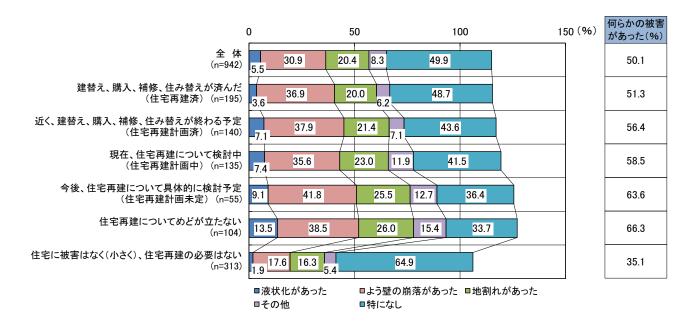
【集計分析】

被災時の居住区別にみると、すべての区で『何らかの被害があった』と回答している人は5割前後となっている。「よう壁の崩落があった」の割合はすべての被災時の居住区で高くなっており、中央区では4割弱となっている。また、南区では「液状化があった」の割合が13.6%となっており、他の被災時の居住区と比べて高くなっている。

図表 宅地の被害状況【住宅の再建状況別】

		全 体		住宅評	住宅再建済		住宅再建計画済		住宅再建計画中	
	選択肢	回答数	割合(%) 除•無回答	回答数	割合(%)除·無回答	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除・無回答	
1	液状化があった	52	5.5	7	3.6	10	7.1	10	7.4	
2	よう壁の崩落があった	291	30.9	72	36.9	53	37.9	48	35.6	
3	地割れがあった	192	20.4	39	20.0	30	21.4	31	23.0	
4	その他	78	8.3	12	6.2	10	7.1	16	11.9	
5	特になし	470	49.9	95	48.7	61	43.6	56	41.5	
	無回答	45		18		6		4		
	回答数合計	1,128		243		170		165		
	回答者数	987		213		146		139		

_								
		住宅再建計画未定		めどがゴ	たない	必要はない		
	選択肢	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除•無回答	回答数	割合(%)除・無回答	
1	液状化があった	5	9.1	14	13.5	6	1.9	
2	よう壁の崩落があった	23	41.8	40	38.5	55	17.6	
3	地割れがあった	14	25.5	27	26.0	51	16.3	
4	その他	7	12.7	16	15.4	17	5.4	
5	特になし	20	36.4	35	33.7	203	64.9	
	無回答	1		2		14		
	回答数合計	70		134		346		
	回答者数	56		106		327		



【集計分析】

住宅の再建状況別にみると、「住宅再建についてめどが立たない」では「液状化があった」の割合が 1 割強となっており、他の住宅の再建状況と比べてやや高くなっている。

また、「今後、住宅再建について具体的に検討予定(住宅再建計画未定)」、「住宅再建についてめどが立たない」では『何らかの被害があった』の割合が6割を超えており、他の住宅の再建状況と比べて高くなっている。

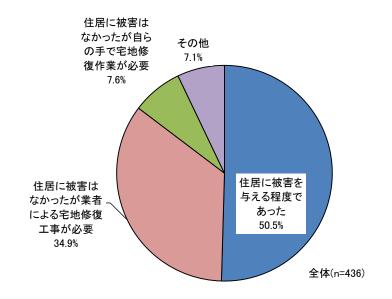
(3) 宅地被害の住宅への影響

【問8で「5」以外に回答した方にお尋ねします。】

問9 宅地の被害の状況はどの程度でしたか。

図表 宅地被害の住宅への影響

	選択肢	回答数	割合(%)含・無回答	割合(%)除・無回答
1	住居に被害を与える程度であった	220	43.6	50.5
2	住居に被害はなかったが業者による宅地修復工事が必要	152	30.1	34.9
3	住居に被害はなかったが自らの手で宅地修復作業が必要	33	6.5	7.6
4	その他	31	6.1	7.1
	無回答	69	13.7	
	승 計	505	100.0	100.0



【「その他」主な意見】

- ●室内に亀裂、雨漏り等:14件
- ●宅地や住宅の修復工事を行った、 又は行う必要がある(修復者

不明):6件

●住宅を解体した、又は解体する

必要がある: 3件

●地質調査が必要: 2件

●その他:5件

【集計分析】

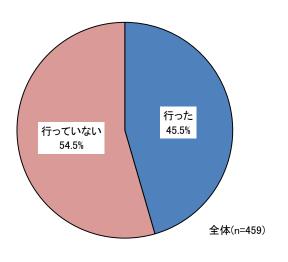
宅地被害の住宅への影響は、「住居に被害を与える程度であった」の回答が 50.5%と最も高く、「住居に被害はなかったが業者による宅地修復工事が必要」(34.9%)、「住居に被害はなかったが自らの手で宅地修復作業が必要」(7.6%)と続いている。

(4) 宅地の修復工事の実施の有無

【問8で「5」以外に回答した方にお尋ねします。】

問10 宅地の修復工事を実際に行いましたか。

図表 宅地の修復工事の実施の有無



	選択肢	回答数	割合(%)含・無回答	割合(%)除・無回答
1	行った	209	41.4	45.5
2	行っていない	250	49.5	54.5
	無回答	46	9.1	
	合 計	505	100.0	100.0

【集計分析】

宅地の修復工事の実施の有無は、「行っていない」の回答が54.5%、「行った」の回答が45.5%となっており、引き続き宅地修復の支援が必要であることがうかがえる。

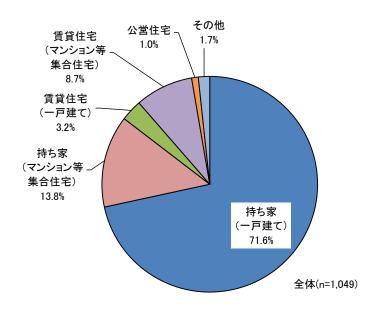
(5) 被災時に住んでいた住居の種類

問11 被災時に住んでいた住居について教えてください。

図表 被災時に住んでいた住居の種類

	選択肢	回答数	割合(%)含・無回答	割合(%)除・無回答	※本市の 住居割合
1	持ち家(一戸建て)	751	71.1	71.6	42.7
2	持ち家 (マンション等集合住宅)	145	13.7	13.8	8.4
3	賃貸住宅(一戸建て)	34	3.2	3.2	4.1
4	賃貸住宅(マンション等集合住宅)	91	8.6	8.7	34.0
5	公営住宅	10	0.9	1.0	5.8
6	その他	18	1.7	1.7	5.0
	無回答	8	0.8		
	合 計	1,057	100.0	100.0	100.0

[※]本市の住居割合は、平成27年国勢調査による。

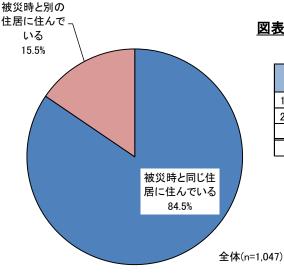


【集計分析】

被災時に住んでいた住居は、「持ち家(一戸建て)」の回答が71.6%と最も高く、「持ち家(マンション等集合住宅)」(13.8%)、「賃貸住宅(マンション等集合住宅)」(8.7%)と続いている。

(6) 現在の住まい

問12 現在のお住まいのところ(または居るところ)について教えてください。



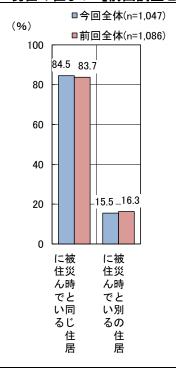
図表 現在の住まい

	選択肢	回答数	割合(%)含・無回答	割合(%)除・無回答
1	被災時と同じ住居に住んでいる	885	83.7	84.5
2	被災時と別の住居に住んでいる	162	15.3	15.5
	無回答	10	0.9	
	合 計	1,057	100.0	100.0

【集計分析】

現在の住まいは、「被災時と同じ住居に住んでいる」の回答が84.5%、「被災時と別の住居に住んでいる」の回答が15.5%となっている。すべての被災世帯(平成29年6月30日時点でのり災証明発行世帯:132,148件)で考えると、実に20,483世帯が慣れない環境下での生活を余儀なくされていることがうかがえる。

図表 現在の住まい【前回調査との比較】



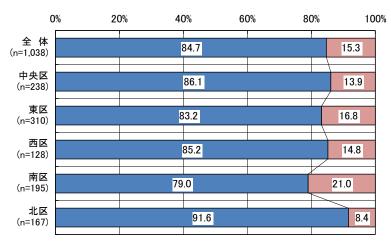
【集計分析】

前回調査と比較すると、「被災時と別の住居に住んでいる」の割合が前回調査と大きな違いはみられない。前回調査のときと変わらず、慣れない環境下での生活を余儀なくされている世帯がいることがうかがえる。

図表 現在の住まい【被災時の居住区別】

		全	: 体	中5	中区	東	区	西	区
	選択肢	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%) 除·無回答	回答数	割合(%)除・無回答
1	被災時と同じ住居に住んでいる	879	84.7	205	86.1	258	83.2	109	85.2
2	被災時と別の住居に住んでいる	159	15.3	33	13.9	52	16.8	19	14.8
	無回答	9		1		2		1	
	숨 計	1,047		239		312		129	

		南	区	北区		
	選択肢	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%) 除·無回答	
1	被災時と同じ住居に住んでいる	154	79.0	153	91.6	
2	被災時と別の住居に住んでいる	41	21.0	14	8.4	
	無回答	3		2		
	合 計	198		169		



■被災時と同じ住居に住んでいる ■被災時と別の住居に住んでいる

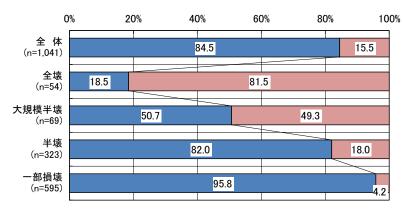
【集計分析】

被災時の居住区別にみると、南区では「被災時と別の住居に住んでいる」の割合が2割強となっており、他の被災時の居住区と比べてやや高くなっている。

図表 現在の住まい【り災証明書のり災区分別】

		全	体	全壊		大規模半壊	
	選択肢	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除•無回答	回答数	割合(%) 除·無回答
1	被災時と同じ住居に住んでいる	880	84.5	10	18.5	35	50.7
2	被災時と別の住居に住んでいる	161	15.5	44	81.5	34	49.3
	無回答	7		0		0	
	合 計	1,048		54		69	

		半	壊	一部損壊		
	選択肢	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%) 除·無回答	
1	被災時と同じ住居に住んでいる	265	82.0	570	95.8	
2	被災時と別の住居に住んでいる	58	18.0	25	4.2	
	無回答	5		2		
	숨 計	328		597		



■被災時と同じ住居に住んでいる ■被災時と別の住居に住んでいる

【集計分析】

り災証明書のり災区分別にみると、り災区分が重いほど「被災時と別の住居に住んでいる」の割合が高くなっており、大規模半壊では5割弱、全壊では8割強が被災時と別の住居に住んでいるとなっている。しかし、全壊でも2割弱の世帯が「被災時と同じ住居に住んでいる」と回答している。

(7) 現在住んでいる住居の種類

【問12で「2」と回答した方にお尋ねします。】

問13 現在住んでいる住居について教えてください。

図表 現在住んでいる住居の種類(被災時とは別の住居のみ)

	選択肢	回答数	割合(%)含・無回答	割合(%)除・無回答
1	持ち家(一戸建て)	14	8.6	8.8
2	持ち家 (マンション等集合住宅)	5	3.1	3.1
3	賃貸住宅(一戸建て)	9	5.6	5.6
4	賃貸住宅(マンション等集合住宅)	33	20.4	20.6
5	公営住宅	3	1.9	1.9
6	家族、親戚、知人の家	7	4.3	4.4
7	みなし仮設住宅	71	43.8	44.4
8	応急仮設住宅	5	3.1	3.1
9	その他	13	8.0	8.1
	無回答	2	1.2	
	合 計	162	100.0	100.0

【「その他」主な意見】

●介護関連施設などの施設

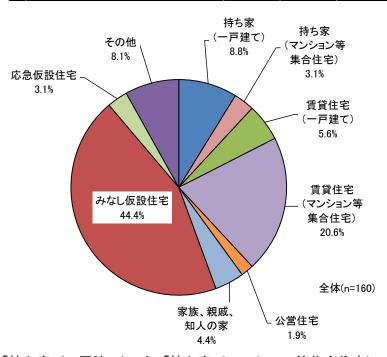
関連の意見:<u>5件</u> ●倉庫、車庫:2件

●病院:<u>1件</u>

●社員寮: **1件**

●管理室を修理して住んで

いる:<u>1件</u>



- ※「持ち家(一戸建て)」と「持ち家(マンション等集合住宅)」を合わせたものを『持ち家』
- ※「賃貸住宅(一戸建て)」と「賃貸住宅(マンション等集合住宅)」を合わせたものを『賃貸住宅』
- ※「公営住宅」と「みなし仮設住宅」と「応急仮設住宅」を合わせたものを『公営住宅等』

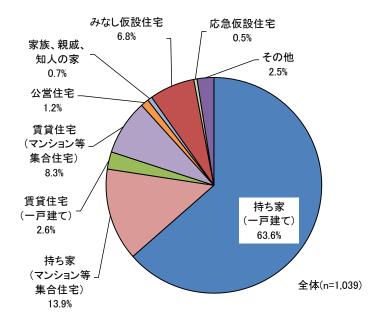
【集計分析】

現在住んでいる住居の種類(被災時とは別の住居のみ)は、「みなし仮設住宅」の回答が44.4% と最も高く、「賃貸住宅(マンション等集合住宅)」(20.6%)、「持ち家(一戸建て)」(8.8%)と 続いている。

また、『持ち家』の割合は 11.9%、『賃貸住宅』の割合は 26.2%、『公営住宅等』の割合は 49.4% となっている。

図表 現在住んでいる住居の種類(被災時と同じ住居を含む)

	選択肢	回答数	割合(%) 含·無回答	割合(%)除・無回答
1	持ち家(一戸建て)	661	62.5	63.6
2	持ち家(マンション等集合住宅)	144	13.6	13.9
3	賃貸住宅(一戸建て)	27	2.6	2.6
4	賃貸住宅(マンション等集合住宅)	86	8.1	8.3
5	公営住宅	12	1.1	1.2
6	家族、親戚、知人の家	7	0.7	0.7
7	みなし仮設住宅	71	6.7	6.8
8	応急仮設住宅	5	0.5	0.5
9	その他	26	2.5	2.5
	無回答	18	1.7	
	숨 計	1,057	100.0	100.0

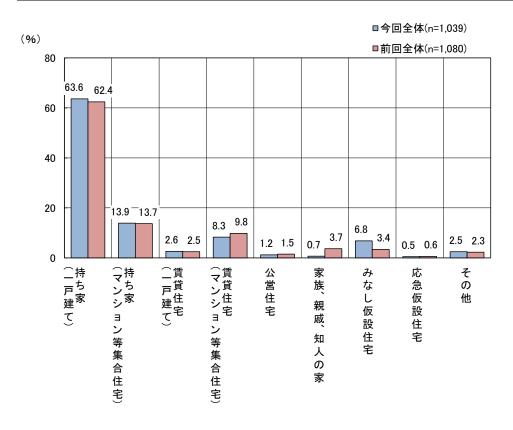


【集計分析】

現在住んでいる住居の種類(被災時と同じ住居を含む)は、「持ち家(一戸建て)」の回答が63.6%と最も高く、「持ち家(マンション等集合住宅)」(13.9%)、「賃貸住宅(マンション等集合住宅)」(8.3%)と続いている。

問 11 の被災時に住んでいた住居と比較すると、『持ち家』の割合は85.4%から77.5%と7.9 ポイント減少しており、被災後に仮設住宅やみなし仮設住宅等へと転居したことが影響していると思われる。

図表 現在住んでいる住居の種類(被災時と同じ住居を含む)【前回調査との比較】



【集計分析】

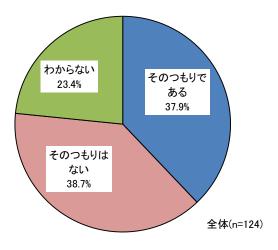
前回調査と比較すると、「家族、親戚、知人の家」の割合はやや低くなっているが、「みなし仮設住宅」の割合はやや高くなっている。

(8) 将来、元の住所に戻って住む予定

【問12で「2」と回答した方にお尋ねします。】

問14 将来的には元の住所に戻って住む予定ですか。

図表 将来、元の住所に戻って住む予定

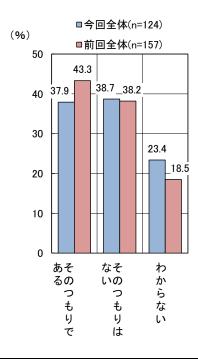


	選択肢	回答数	割合(%) 含·無回答	割合(%)除・無回答
1	そのつもりである	47	29.0	37.9
2	そのつもりはない	48	29.6	38.7
3	わからない	29	17.9	23.4
	無回答	38	23.5	
	合 計	162	100.0	100.0

【集計分析】

将来、元の住所に戻って住む予定は、「そのつもりはない」の回答が 38.7%と最も高く、「その つもりである」(37.9%)、「わからない」(23.4%) と続いている。

図表 将来、元の住所に戻って住む予定【前回調査との比較】



【集計分析】

前回調査と比較すると、「そのつもりである」の割合が 5.4 ポイント減少しており、「わからない」 の割合が 4.9 ポイント増加しており、将来の住まいについて悩んでいる傾向がうかがえる。

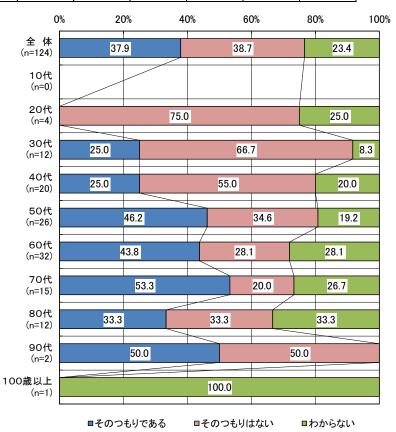
図表 将来、元の住所に戻って住む予定【年齢別】

		全 体		10	10代		20代)代
	選択肢	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除•無回答	回答数	割合(%) 除•無回答
1	そのつもりである	47	37.9	0		0	1	3	25.0
2	そのつもりはない	48	38.7	0		3	75.0	8	66.7
3	わからない	29	23.4	0		1	25.0	1	8.3
	無回答	38		0		1		2	
	合 計	162	100.0	0	-	5	100.0	14	100.0

		40代		50代		60代		70代	
	選択肢	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%) 除•無回答	回答数	割合(%)除・無回答
1	そのつもりである	5	25.0	12	46.2	14	43.8	8	53.3
2	そのつもりはない	11	55.0	9	34.6	9	28.1	3	20.0
3	わからない	4	20.0	5	19.2	9	28.1	4	26.7
	無回答	7		4		14		3	
	合 計	27	100.0	30	100.0	46	100.0	18	100.0

		80)代	90)代	100歳	
	選択肢	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除・無回答
1	そのつもりである	4	33.3	1	50.0	0	Ì
2	そのつもりはない	4	33.3	1	50.0	0	I
3	わからない	4	33.3	0	-	1	100.0
	無回答	7		0		0	
	合 計	19	100.0	2	100.0	1	100.0

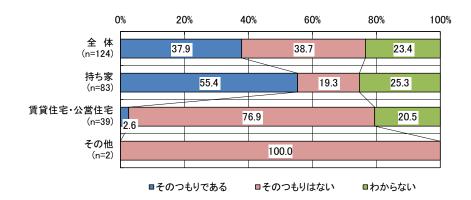
【集計分析】



年齢別にみると、年齢が高くなるほど「そのつもりである」の割合が高くなる傾向にあり、70代・90代では半数が将来、元の住所に戻って住みたいと考えている。

図表 将来、元の住所に戻って住む予定【被災時に住んでいた住居の種類(3区分)別】

		全	体	持ち	5家	賃貸住宅	·公営住宅	そ0	D他
	選択肢	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除•無回答	回答数	割合(%) 除·無回答
1	そのつもりである	47	37.9	46	55.4	1	2.6	0	_
2	そのつもりはない	48	38.7	16	19.3	30	76.9	2	100.0
3	わからない	29	23.4	21	25.3	8	20.5	0	-
	無回答	37		19		15		3	
	合 計	161	100.0	102	100.0	54	100.0	5	100.0



【集計分析】

被災時に住んでいた住居の種類(3区分)別にみると、持ち家では「そのつもりである」の割合が6割弱となっており、元の住所に戻って住む意向がある人が半数以上いる。

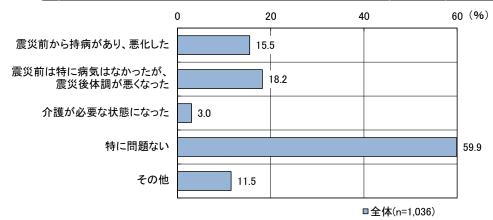
3. 健康状態について

(1)現在の健康状態

問15 あなたやご家族の現在の健康状態で当てはまるものがありますか。(複数回答可)

図表 現在の健康状態

	選択肢	回答数	割合(%) 無回答含	割合(%) 無回答除
1	震災前から持病があり、悪化した	161	15.2	15.5
2	震災前は特に病気はなかったが、震災後体調が悪くなった	189	17.9	18.2
3	介護が必要な状態になった	31	2.9	3.0
4	特に問題ない	621	58.8	59.9
5	その他	119	11.3	11.5
	無回答	21	2.0	
	回答数合計	1,142		
	回答者数	1,057		



【「その他」主な意見】

- ●入院した、怪我をした、腰痛、骨折、めまい、耳鳴り、循環器系(動悸、息切れ、不整脈、過呼吸)などの身体的症状の意見:46件
- ●精神的疲労、心労、ストレス、睡眠不足、神経過敏、情緒不安など精神的影響の意見:<u>39件</u>
- ●特に変化なし: 12件
- ●外出困難、歩行困難、認知症など:5件
- ●死亡:**5件**
- ●食事が不規則、体重減少など:3件
- ●衛生状態が悪い、アレルギーなど:2件
- ●その他、「過労で倒れた」、「震災前と何かがちがう」、「子供の落ちつきがなくなった」などの意見があった。

【集計分析】

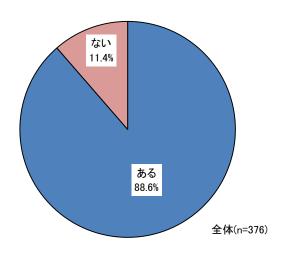
現在の健康状態は、「特に問題ない」の回答が 59.9%と最も高く、「震災前は特に病気はなかったが、震災後体調が悪くなった」(18.2%)、「震災前から持病があり、悪化した」(15.5%)と続いている。

(2) かかりつけの医療機関や相談先の有無

【問15で「5」以外に回答した方にお尋ねします。】

問16 かかりつけの医療機関や相談先はありますか。

図表 かかりつけの医療機関や相談先の有無



	選択肢	回答数	割合(%) 含·無回答	割合(%)除・無回答			
1	ある	333	80.2	88.6			
2	ない	43	10.4	11.4			
	無回答	39	9.4				
	合 計	415	100.0	100.0			

【集計分析】

かかりつけの医療機関や相談先の有無は、「ある」の回答が88.6%、「ない」の回答が11.4%となっている。

4. 今後のお住まいについて

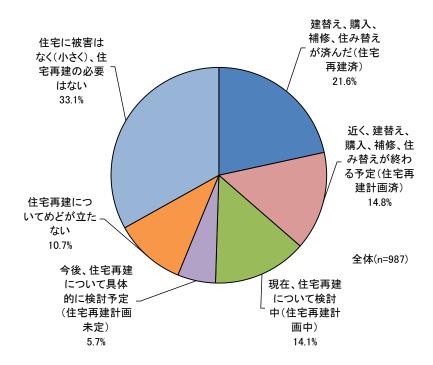
(1) 住宅の再建状況

問17 住宅の再建状況を教えてください。

なお、本質問における「住み替え」には、応急仮設・みなし仮設住宅は含まないものと します。

図表 住宅の再建状況

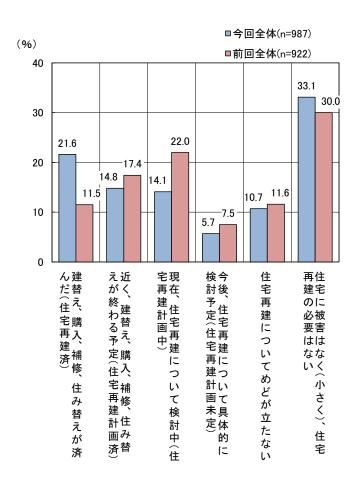
	選択肢	回答数	割合(%) 含·無回答	割合(%)除・無回答
1	建替え、購入、補修、住み替えが済んだ(住宅再建済)	213	20.2	21.6
2	近く、建替え、購入、補修、住み替えが終わる予定(住宅再建計画済)	146	13.8	14.8
3	現在、住宅再建について検討中(住宅再建計画中)		13.2	14.1
4	今後、住宅再建について具体的に検討予定(住宅再建計画未定)	56	5.3	5.7
5	住宅再建についてめどが立たない		10.0	10.7
6	住宅に被害はなく(小さく)、住宅再建の必要はない	327	30.9	33.1
	無回答	70	6.6	
	合 計	1,057	100.0	100.0



【集計分析】

住宅の再建状況は、「住宅に被害はなく(小さく)、住宅再建の必要はない」の回答が33.1%と最も高く、「建替え、購入、補修、住み替えが済んだ(住宅再建済)」(21.6%)、「近く、建替え、購入、補修、住み替えが終わる予定(住宅再建計画済)」(14.8%)と続いている。

図表 住宅の再建状況【前回調査との比較】



- ※「建替え、購入、補修、住み替えが済んだ(住宅再建済)」と「近く、建替え、購入、補修、住み替えが終わる予定(住宅再建計画済)」を合わせたものを『再建にめどが立った』
- ※「現在、住宅再建について検討中(住宅再建計画中)」と「今後、住宅再建について具体的に検討予定(住宅再建計画未定)」と「住宅再建についてめどが立たない」を合わせたものを『再建にめどが立っていない』

【集計分析】

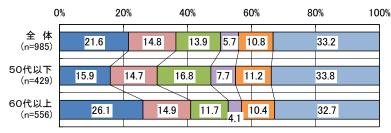
前回調査と比較すると、今回調査では「建替え、購入、補修、住み替えが済んだ(住宅再建済)」 の割合が 10.1 ポイント増加している。

また、『再建にめどが立った』世帯は、今回調査では36.4%となっており、前回調査(28.9%) と比べて7.5 ポイント増加している。

一方、『再建にめどが立っていない』世帯は、今回調査では 30.5%となっており、前回調査 (41.1%)と比べて 10.6 ポイント減少しており、前回調査時と比べて住宅の再建が進んでいると 考えられる。

図表 住宅の再建状況【年齢別】

		全	体	50代	以下	60代	以上
	選択肢	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除・無回答
1	住宅再建済	213	21.6	68	15.9	145	26.1
2	住宅再建計画済	146	14.8	63	14.7	83	14.9
3	住宅再建計画中	137	13.9	72	16.8	65	11.7
4	住宅再建計画未定	56	5.7	33	7.7	23	4.1
5	住宅再建についてめどが立たない	106	10.8	48	11.2	58	10.4
6	住宅再建の必要はない	327	33.2	145	33.8	182	32.7
	無回答	67		12		55	
	合 計	1,052	100.0	441	100.0	611	100.0



- ■建替え、購入、補修、住み替えが済んだ(住宅再建済)
- ■近く、建替え、購入、補修、住み替えが終わる予定(住宅再建計画済)
- ■現在、住宅再建について検討中(住宅再建計画中)
- □今後、住宅再建について具体的に検討予定(住宅再建計画未定)
- ■住宅再建についてめどが立たない
- ■住宅に被害はなく(小さく)、住宅再建の必要はない

【集計分析】

年齢別にみると、60代以上では「建替え、購入、補修、住み替えが済んだ(住宅再建済)」の割合が50代以下と比べて高くなっている。

また、60 代以上では『再建にめどが立った』 世帯が 4 割強となっており、50 代以下よりも 10.4 ポイント高くなっている。

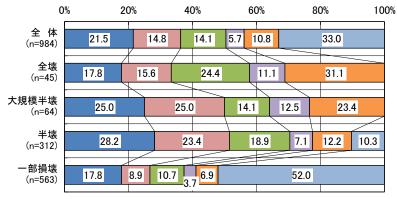
前回調査と比べて 60 代以上の「建替え、購入、補修、住み替えが済んだ(住宅再建済)」の割合は 13.6 ポイント増加している。

(前回調査では 60 代以上の「建替え、購入、補修、住み替えが済んだ(住宅再建済)」の割合は 12.5%)

図表 住宅の再建状況【り災証明書のり災区分別】

		全	体	全	:壊	大規模	
	選択肢	回答数	割合(%)除•無回答	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除・無回答
1	住宅再建済	212	21.5	8	17.8	16	25.0
2	住宅再建計画済	146	14.8	7	15.6	16	25.0
3	住宅再建計画中	139	14.1	11	24.4	9	14.1
4	住宅再建計画未定	56	5.7	5	11.1	8	12.5
5	住宅再建についてめどが立たない	106	10.8	14	31.1	15	23.4
6	住宅再建の必要はない	325	33.0	0	-	0	_
	無回答	64		9		5	
	合 計	1,048	100.0	54	100.0	69	100.0

		半	壊	一部	損壊
	選択肢	回答数	割合(%)除•無回答	回答数	割合(%)除•無回答
1	住宅再建済	88	28.2	100	17.8
2	住宅再建計画済	73	23.4	50	8.9
3	住宅再建計画中	59	18.9	60	10.7
4	住宅再建計画未定	22	7.1	21	3.7
5	住宅再建についてめどが立たない	38	12.2	39	6.9
6	住宅再建の必要はない	32	10.3	293	52.0
	無回答	16		34	
	合 計	328	100.0	597	100.0



- ■建替え、購入、補修、住み替えが済んだ(住宅再建済)
- ■近く、建替え、購入、補修、住み替えが終わる予定(住宅再建計画済)
- ■現在、住宅再建について検討中(住宅再建計画中)
- □今後、住宅再建について具体的に検討予定(住宅再建計画未定)
- ■住宅再建についてめどが立たない
- ■住宅に被害はなく(小さく)、住宅再建の必要はない

【集計分析】

り災証明書のり災区分別にみると、全壊、大規模半壊では「住宅再建についてめどが立たない」 の割合が2~3割となっており、他のり災証明書のり災区分と比べて高くなっている。

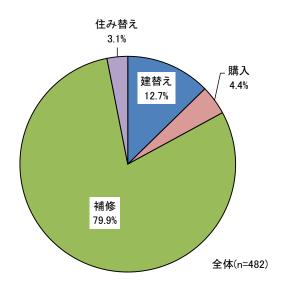
また、り災区分が重いほど『再建にめどが立っていない』世帯の割合が高くなっており、全壊では7割弱、大規模半壊では5割となっている。

(2) 住宅の再建方法

【問17で「1」「2」「3」のいずれかに回答した方にお尋ねします。】

問18 住宅再建の方法を教えてください。(予定含む。)

図表 住宅の再建方法



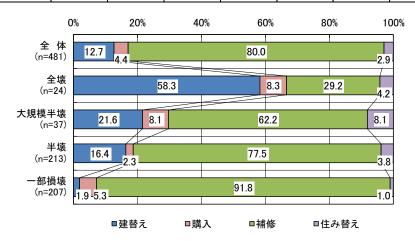
	選択肢	回答数	割合(%)含・無回答	割合(%)除・無回答
1	建替え	61	12.2	12.7
2	購入	21	4.2	4.4
3	補修	385	77.3	79.9
4	住み替え	15	3.0	3.1
	無回答	16	3.2	
	合 計	498	100.0	100.0

【集計分析】

住宅の再建方法は、「補修」の回答が 79.9%と最も高く、「建替え」(12.7%)、「購入」(4.4%)と続いている。

図表 住宅の再建方法【り災証明書のり災区分別】

		全 体		全	全壊		大規模半壊		壊	一部	損壊
	選択肢	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%) 除·無回答	回答数	割合(%)除・無回答
1	建替え	61	12.7	14	58.3	8	21.6	35	16.4	4	1.9
2	購入	21	4.4	2	8.3	3	8.1	5	2.3	11	5.3
3	補修	385	80.0	7	29.2	23	62.2	165	77.5	190	91.8
4	住み替え	14	2.9	1	4.2	3	8.1	8	3.8	2	1.0
	無回答	16		2		4		7		3	
	合 計	497	100.0	26	100.0	41	100.0	220	100.0	210	100.0



【集計分析】

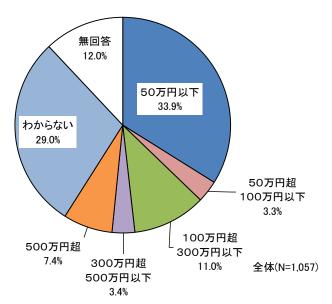
り災証明書のり災区分別にみると、全壊では「建替え」の割合が6割弱となっており、半数以上となっている。

(3) 住宅の再建費用

【問17で「1」「2」「3」のいずれかに回答した方にお尋ねします。】

問19 住宅再建にかかった費用、もしくは見積もり費用はどれくらいですか。

図表 住宅の再建費用(全体)



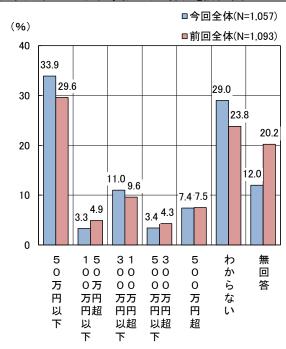
	選択肢	回答数	割合(%)含・無回答
1	50万円以下	358	33.9
2	50万円超100万円以下	35	3.3
3	100万円超300万円以下	116	11.0
4	300万円超500万円以下	36	3.4
5	500万円超	78	7.4
6	わからない	307	29.0
	無回答	127	12.0
	合 計	1,057	100.0

- ※問7で選択肢「一部損壊世帯」を選び、問19で「1,000万円以上」と記入した回答はエラーとして除外している。
- ※問7で選択肢「半壊」「大規模半壊」「全壊」を選び、問19で「4,000万円以上」と記入した回答はエラーとして除外している。
- ※問 17 の選択肢「今後、住宅再建について具体的に検討予定(住宅再建計画未定)」「住宅再建についてめどが立たない」を「わからない」、選択肢「住宅に被害はなく(小さく)、住宅再建の必要がない」を「0円」として集計を行っている。

【集計分析】

住宅の再建費用は、「50万円以下」の回答が33.9%と最も高く、「わからない」(29.0%)、「100万円超300万円以下」(11.0%)と続いている。

図表 住宅の再建費用(全体)【前回調査との比較】



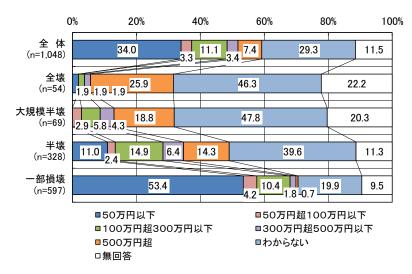
【集計分析】

前回調査と比較すると、今回調査では「50万円以下」の割合が4.3ポイント増加している。

図表 住宅の再建費用【り災証明書のり災区分別】

			全 体			全壊			大規模半壊	
	選択肢	回答数	割合(%)含・無回答	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%) 含·無回答	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)含・無回答	割合(%)除・無回答
1	50万円以下	356	34.0	38.4	1	1.9	2.4	0	-	ı
2	50万円超100万円以下	35	3.3	3.8	0	_	-	2	2.9	3.6
3	100万円超300万円以下	116	11.1	12.5	1	1.9	2.4	4	5.8	7.3
4	300万円超500万円以下	36	3.4	3.9	1	1.9	2.4	3	4.3	5.5
5	500万円超	78	7.4	8.4	14	25.9	33.3	13	18.8	23.6
6	わからない	307	29.3	33.1	25	46.3	59.5	33	47.8	60.0
	無回答	120	11.5		12	22.2		14	20.3	
	合 計	1,048	100.0	100.0	54	100.0	100.0	69	100.0	100.0
	平均金額 (万円)		267			1,589			1,010	

			半壊			一部損壊		
	選択肢	回答数	割合(%) 含•無回答	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)含・無回答	割合(%)除・無回答	
1	50万円以下	36	11.0	12.4	319	53.4	59.1	
2	50万円超100万円以下	8	2.4	2.7	25	4.2	4.6	
3	100万円超300万円以下	49	14.9	16.8	62	10.4	11.5	
4	300万円超500万円以下	21	6.4	7.2	11	1.8	2.0	
5	500万円超	47	14.3	16.2	4	0.7	0.7	
6	わからない	130	39.6	44.7	119	19.9	22.0	
	無回答	37	11.3		57	9.5		
	合 計	328	100.0	100.0	597	100.0	100.0	
	平均金額(万円)		585		53			

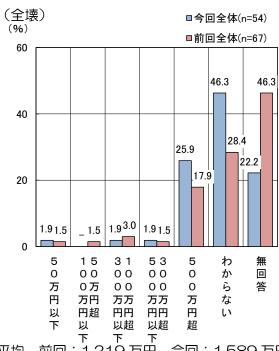


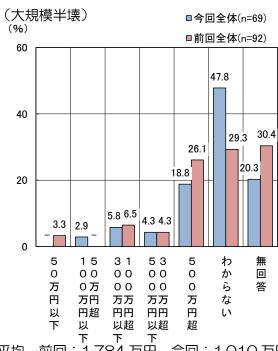
【集計分析】

り災証明書のり災区分別にみると、全壊では「500万円超」の割合が3割弱、大規模半壊では「500万円超」の割合が2割弱、半壊では「100万円超300万円以下」の割合が1割強、一部 損壊では「50万円以下」の割合が5割強で高くなっている。

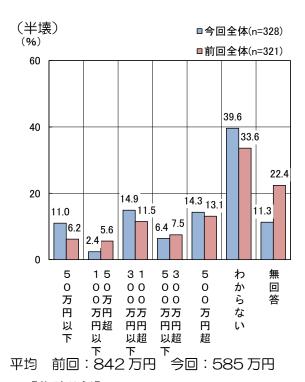
また、住宅再建にかかった金額の平均は全壊で 1,589 万円、大規模半壊で 1,010 万円、半壊で 585 万円、一部損壊で 53 万円となっている。

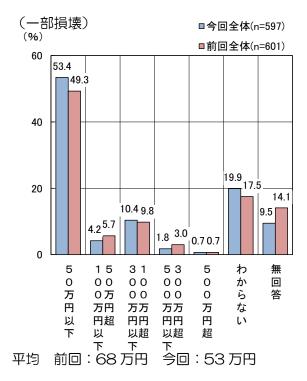
図表 住宅の再建費用(全体)【り災証明書のり災区分別】【前回調査との比較】





平均 前回: 1,219万円 今回: 1,589 万円 平均 前回: 1,784 万円 今回:1,010万円





【集計分析】

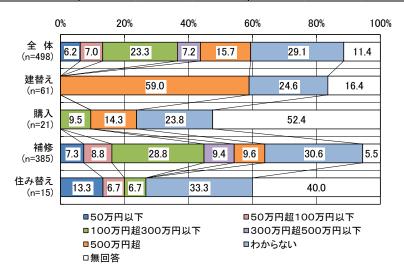
り災証明書のり災区分別に前回調査と比較すると、今回調査では全壊で「500 万円超」の割合 が8.0 ポイント増加している。

また、全壊の平均は今回調査の方が上回っているが、それ以外のり災区分の平均では前回調査の 方が上回っている。

図表 住宅の再建費用【住宅の再建方法別】

			全 体			建替え			購入	
	選択肢	回答数	割合(%)含・無回答	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%) 含·無回答	割合(%)除•無回答	回答数	割合(%)含・無回答	割合(%)除・無回答
1	50万円以下	31	6.2	7.0	0	-	1	0	-	-
2	50万円超100万円以下	35	7.0	7.9	0	-	1	0	ı	I
3	100万円超300万円以下	116	23.3	26.3	0	-	1	2	9.5	20.0
4	300万円超500万円以下	36	7.2	8.2	0	_	I	0	-	ı
5	500万円超	78	15.7	17.7	36	59.0	70.6	3	14.3	30.0
6	わからない	145	29.1	32.9	15	24.6	29.4	5	23.8	50.0
	無回答	57	11.4		10	16.4		11	52.4	
	合 計	498	100.0	100.0	61	100.0	100.0	21	100.0	100.0
	平均金額 (万円)		560		2,306			1,280		

			補修			住み替え		
	選択肢	回答数	割合(%) 含•無回答	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%) 含•無回答	割合(%)除・無回答	
1	50万円以下	28	7.3	7.7	2	13.3	22.2	
2	50万円超100万円以下	34	8.8	9.3	1	6.7	11.1	
3	100万円超300万円以下	111	28.8	30.5	1	6.7	11.1	
4	300万円超500万円以下	36	9.4	9.9	0	-	-	
5	500万円超	37	9.6	10.2	0	-	-	
6	わからない	118	30.6	32.4	5	33.3	55.6	
	無回答	21	5.5		6	40.0		
	合 計	385	100.0	100.0	15	100.0	100.0	
	平均金額(万円)		299		58			



【集計分析】

住宅の再建方法別にみると、建替えでは「500万円超」の割合が6割弱、購入では「500万円超」の割合が1割強、補修では「100万円超300万円以下」の割合が3割弱、住み替えでは「50万円以下」の割合が1割強で高くなっている。

また、住宅再建にかかった金額の平均は建替えで 2,306 万円、購入で 1,280 万円、補修で 299 万円、住み替えで 58 万円となっている。

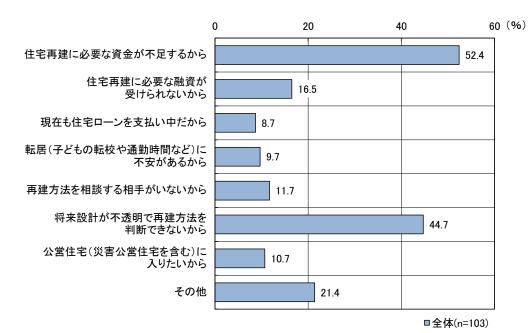
(4) 住宅の再建のめどが立たない理由

【問17で「5」と回答した方にお尋ねします。】

問20 住宅再建のめどが立たない理由 (課題) は何ですか。(複数回答可)

図表 住宅の再建のめどが立たない理由

	選択肢	回答数	割合(%) 無回答含	割合(%) 無回答除
1	住宅再建に必要な資金が不足するから	54	50.9	52.4
2	住宅再建に必要な融資が受けられないから	17	16.0	16.5
3	現在も住宅ローンを支払い中だから	9	8.5	8.7
4	転居(子どもの転校や通勤時間など)に不安があるから	10	9.4	9.7
5	再建方法を相談する相手がいないから	12	11.3	11.7
6	将来設計が不透明で再建方法を判断できないから	46	43.4	44.7
7	公営住宅(災害公営住宅を含む)に入りたいから	11	10.4	10.7
8	その他	22	20.8	21.4
	無回答	3	2.8	
	回答数合計	184		
	回答者数	106		



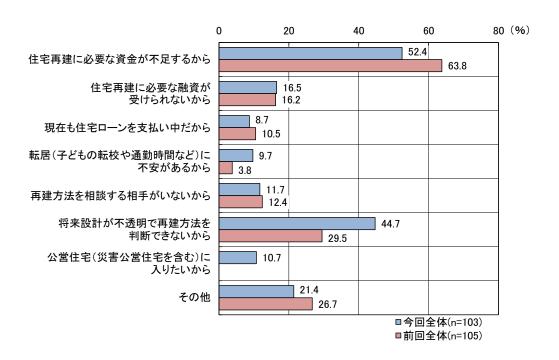
【「その他」主な意見】

- ●「高年齢のためローンが 使えない」「年収が少な過 ぎ」「一部損壊の為公的資 金が足りない」など資金 問題による意見:6件
- ●「賃貸か一戸建てを購入するか」「建替えか大規模修理か」「再建と公営住宅との間でゆれている」など検討中の意見:3件
- ●その他の意見として、「マンション内での話し合いによる合意形成が取れていない」、「賃貸のため、オーナーの判断が不明」、「ケアホームに入所したから」、「主人の勤務先近くに住む予定」などの意見があった。

【集計分析】

住宅の再建のめどが立たない理由は、「住宅再建に必要な資金が不足するから」の回答が 52.4% と最も高く、「将来設計が不透明で再建方法を判断できないから」(44.7%)、「その他」(21.4%)と続いている。

図表 住宅の再建のめどが立たない理由【前回調査との比較】



※選択肢「公営住宅(災害公営住宅を含む)に入りたいから」は今回調査から追加

【集計分析】

前回調査と比較すると、今回調査では「将来設計が不透明で再建方法を判断できないから」の割合が 15.2 ポイント増加、「住宅再建に必要な資金が不足するから」の割合が 11.4 ポイント減少している。

「将来設計が不透明で再建方法を判断できないから」の割合が大きく増加しており、今後も引き続き、充実した相談体制が必要なことがうかがえる。

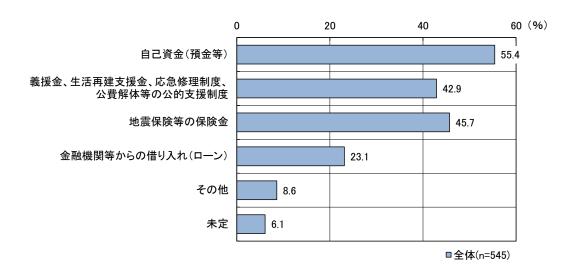
(5) 建替え、補修、住み替え等に要する資金源

【問17で「6」以外に回答した方にお尋ねします。】

問21 建替え、補修、住み替え等に要する資金(予定を含む)は何ですか。(複数回答可)

図表 建替え、補修、住み替え等に要する資金源

	選択肢	回答数	割合(%)無回答含	割合(%) 無回答除
1	自己資金(預金等)	302	45.8	55.4
2	義援金、生活再建支援金、応急修理制度、公費解体等の公的支援制度	234	35.5	42.9
3	地震保険等の保険金	249	37.7	45.7
4	金融機関等からの借り入れ(ローン)	126	19.1	23.1
5	その他	47	7.1	8.6
6	未定	33	5.0	6.1
	無回答	115	17.4	
	回答数合計	1,106		
	回答者数	660	\setminus	



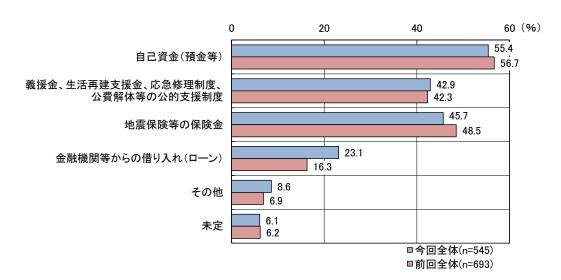
【「その他」主な意見】

- ●「マンション修繕積立金」などの積立金:13件
- ●「大家の負担」: 5件
- ●「子供からの援助」などの親族・知人等からの援助:3件
- ●「親族からの借入れ」など親族・知人からの借入れ:3件
- ●その他、「生命保険の解約金」、「資金が一切なしの為、出来ない」、「どうしたら良いかもわからない」などの意見があった。

【集計分析】

建替え、補修、住み替え等に要する資金源は、「自己資金(預金等)」の回答が 55.4%と最も高く、「地震保険等の保険金」(45.7%)、「義援金、生活再建支援金、応急修理制度、公費解体等の公的支援制度」(42.9%)と続いている。

図表 建替え、補修、住み替え等に要する資金源【前回調査との比較】



【集計分析】

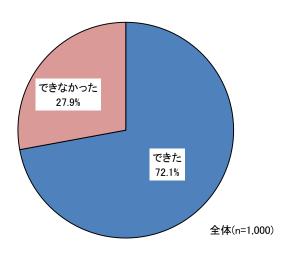
前回調査と比較すると、「金融機関等からの借り入れ(ローン)」の割合が 6.8 ポイント増加している。

5. 公的支援制度の利用状況

(1)必要な支援情報の取得

問22 下表のような主な支援制度について、あなたは必要な支援情報を得ることができま したか。

図表 必要な支援情報の取得



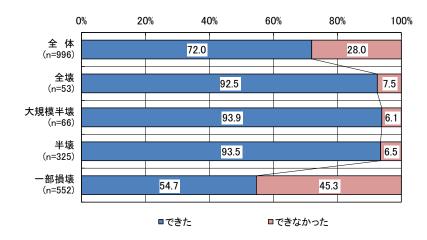
	選択肢	回答数	割合(%)含・無回答	割合(%)除・無回答
1	できた	721	68.2	72.1
2	できなかった	279	26.4	27.9
	無回答	57	5.4	
	合 計	1,057	100.0	100.0

【集計分析】

必要な支援情報の取得は、「できた」の回答が 72.1%、「できなかった」の回答が 27.9%となっている。

図表 必要な支援情報の取得【り災証明書のり災区分別】

		全 体		全壊		大規模半壊		半壊		一部損壊	
	選択肢	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除・無回答
1	できた	717	72.0	49	92.5	62	93.9	304	93.5	302	54.7
2	できなかった	279	28.0	4	7.5	4	6.1	21	6.5	250	45.3
	無回答	52		1		3		3		45	
	승 計	1,048		54		69		328		597	



【集計分析】

り災証明書のり災区分別にみると、半壊以上は「できた」の割合が 93%前後と高い水準であるが、一部損壊では「できなかった」の割合が 5割弱となっており、他のり災区分と比べて高くなっている。一部損壊世帯は、非課税世帯・ひとり親世帯への災害義援金などのように、一部損壊のり災証明書以外にも他の条件を付されている場合があるなど、一部損壊の認定のみで受けられる支援が少ないことから自身に必要な情報としては得られないという回答になっているものと考えられる。

(2) 支援制度の認知媒体

【問22で「1」と回答した方にお尋ねします。】

問23 上記の支援制度については、どのようにして知りましたか。(複数回答可)

図表 支援制度の認知媒体

	選択肢	回答数	割合(%)無回答含	割合(%) 無回答除
1	市政だより	378	52.4	52.9
2	区役所等の窓口	242	33.6	33.8
3	市のホームページ、市のFacebookなど	166	23.0	23.2
4	SNSなど	29	4.0	4.1
5	市が発行する被災者支援制度の冊子	192	26.6	26.9
6	テレビ・ラジオ・新聞	350	48.5	49.0
7	情報誌(タウン誌等)	35	4.9	4.9
8	近所の方から	148	20.5	20.7
9	親戚・知人等から	197	27.3	27.6
10	民生委員から	7	1.0	1.0
11	その他	58	8.0	8.1
	無回答	6	0.8	
	回答数合計	1,808		
	回答者数	721		

20 40



●「マンションの管理組

合」: <u>13件</u>

●「会社や学校からの情

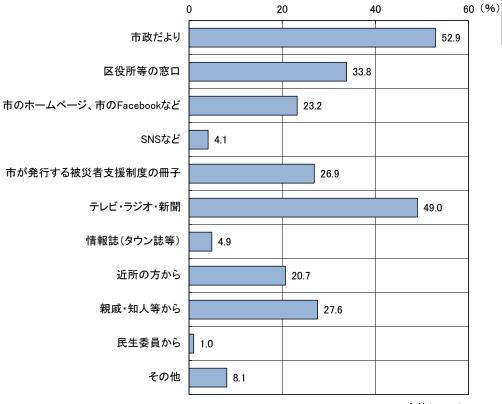
報」: 11件

●「市からの郵便」: <u>7件</u>

●「医療機関窓□」: 4件

●「避難所」: 2件

●その他、「家族(息子達)」 や「建設会社の方」、「ボ ランティア活動の中で」 との意見があった。

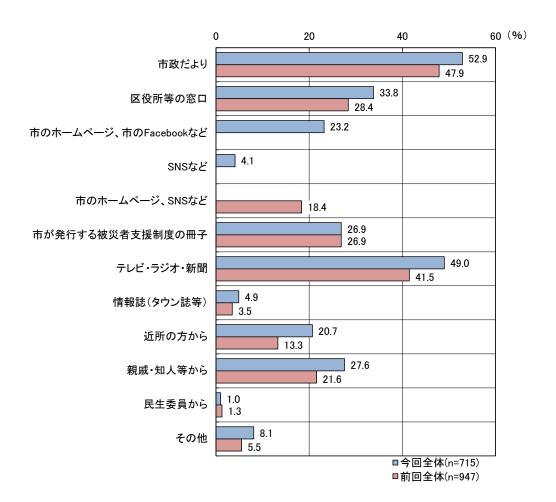


□全体(n=715)

【集計分析】

支援制度の認知媒体は、「市政だより」の回答が 52.9%と最も高く、「テレビ・ラジオ・新聞」 (49.0%)、「区役所等の窓口」(33.8%)と続いている。

図表 支援制度の認知媒体【前回調査との比較】



※今回調査では選択肢「市のホームページ、市の Facebook など」「SNS など」を追加し、前回調査の選択肢「市のホームページ、SNS など」を削除している。

【集計分析】

前回調査と比較すると、今回調査では「市が発行する被災者支援制度の冊子」「民生委員から」 以外の割合が増加しており、特に「テレビ・ラジオ・新聞」の割合は7.5 ポイント増加している。 また、「市政だより」の割合は5.0 ポイント、「区役所等の窓口」の割合は5.4 ポイント増加している。 る。

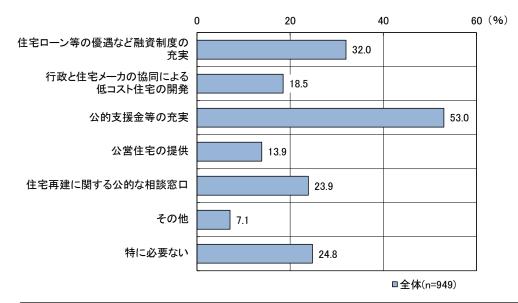
6. 今後必要な支援について

(1) 住宅再建に必要な支援

問24 住宅の再建に必要な支援は何ですか。(複数回答可)

図表 住宅再建に必要な支援

	選択肢	回答数	割合(%) 無回答含	割合(%) 無回答除
1	住宅ローン等の優遇など融資制度の充実	304	28.8	32.0
2	行政と住宅メーカの協同による低コスト住宅の開発	176	16.7	18.5
3	公的支援金等の充実	503	47.6	53.0
4	公営住宅の提供	132	12.5	13.9
5	住宅再建に関する公的な相談窓口	227	21.5	23.9
6	その他	67	6.3	7.1
7	特に必要ない	235	22.2	24.8
	無回答	108	10.2	
	回答数合計	1,752		
	回答者数	1,057		



【「その他」主な意見】

●一部損壊への支援を求める意見: 11件●経済的支援を求める意見: 11件

●住居に関する支援を求める意見:6件

●修理に関する支援を求める意見:**5件**

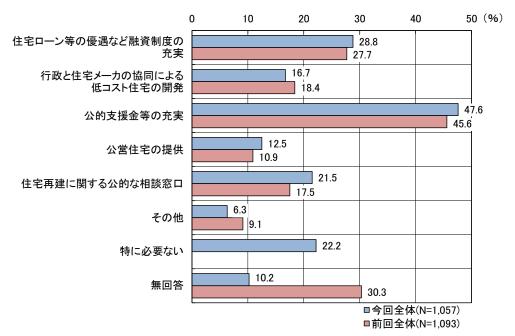
●修理業者の情報提供や紹介に関する意見:3件 ●住宅の危険度の調査に関する意見:2件

●その他、「解体や片付けが先延ばしになった世帯への救済」、「値段の上昇等をどうにかして欲 しい」、「受ける支援制度がない」などの意見があった。

【集計分析】

住宅再建に必要な支援は、「公的支援金等の充実」の回答が 53.0%と最も高く、「住宅ローン等 の優遇など融資制度の充実」(32.0%)、「特に必要ない」(24.8%)と続いている。

図表 住宅再建に必要な支援【前回調査との比較】



※前回調査では「特に必要ない」の選択肢がなかったため、特に必要ない方は無回答となっている可能性がある。そのため、問24では無回答を含めて比較を行っている。

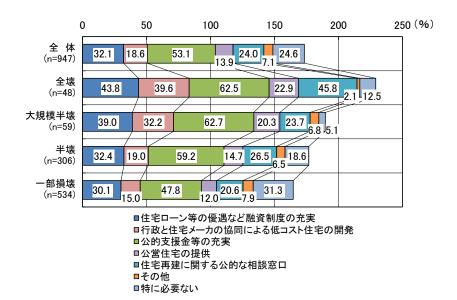
【集計分析】

前回調査と比較すると、今回調査では「住宅再建に関する公的な相談窓口」の割合が 4.0 ポイント高くなっており、今後も引き続き、充実した相談体制が必要なことがうかがえる。

図表 住宅再建に必要な支援【り災証明書のり災区分別】

		全 体		全壊		大規模半壊	
	選択肢	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除・無回答
1	住宅ローン等の優遇など融資制度の充実	304	32.1	21	43.8	23	39.0
2	行政と住宅メーカの協同による低コスト住宅の開発	176	18.6	19	39.6	19	32.2
3	公的支援金等の充実	503	53.1	30	62.5	37	62.7
4	公営住宅の提供	132	13.9	11	22.9	12	20.3
5	住宅再建に関する公的な相談窓口	227	24.0	22	45.8	14	23.7
6	その他	67	7.1	1	2.1	4	6.8
7	特に必要ない	233	24.6	6	12.5	3	5.1
	無回答	101		6		10	
	回答数合計	1,743		116		122	
	回答者数	1,048		54		69	

		半	壊	一部損壊		
	選択肢	回答数	割合(%)除•無回答	回答数	割合(%)除•無回答	
1	住宅ローン等の優遇など融資制度の充実	99	32.4	161	30.1	
2	行政と住宅メーカの協同による低コスト住宅の開発	58	19.0	80	15.0	
3	公的支援金等の充実	181	59.2	255	47.8	
4	公営住宅の提供	45	14.7	64	12.0	
5	住宅再建に関する公的な相談窓口	81	26.5	110	20.6	
6	その他	20	6.5	42	7.9	
7	特に必要ない	57	18.6	167	31.3	
	無回答	22		63		
	回答数合計	563		942		
	回答者数	328		597		



【集計分析】

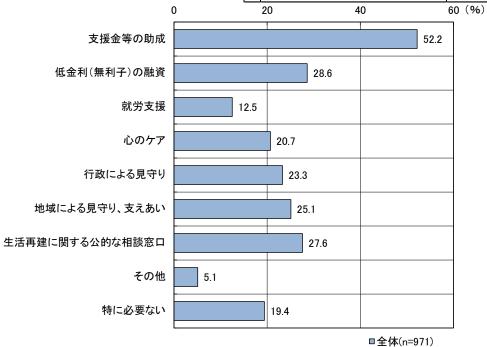
り災証明書のり災区分別でみると、り災区分が重いほど支援を求める割合が高い傾向にあり、全 壊では特に「公的支援金等の充実」「住宅再建に関する公的な相談窓口」の割合が高くなっている。

(2) 住宅再建以外で被災以前の生活に戻るのに必要な支援等

問25 住宅再建以外で震災以前の生活に戻るのに必要な支援や対応は何ですか。(複数回答可)

図表 住宅再建以外で被災以前の生活に戻るのに必要な支援等

	選択肢	回答数	割合(%)無回答含	割合(%)無回答除
1	支援金等の助成	507	48.0	52.2
2	低金利(無利子)の融資	278	26.3	28.6
3	就労支援	121	11.4	12.5
4	心のケア	201	19.0	20.7
5	行政による見守り	226	21.4	23.3
6	地域による見守り、支えあい	244	23.1	25.1
7	生活再建に関する公的な相談窓口	268	25.4	27.6
8	その他	50	4.7	5.1
9	特に必要ない	188	17.8	19.4
	無回答	86	8.1	
	回答数合計	2,169		
	回答者数	1,057		



【「その他」主な意見】

●経済的な支援への意見: 17件

●道路の補修・整備に関する意見:<u>4件</u>

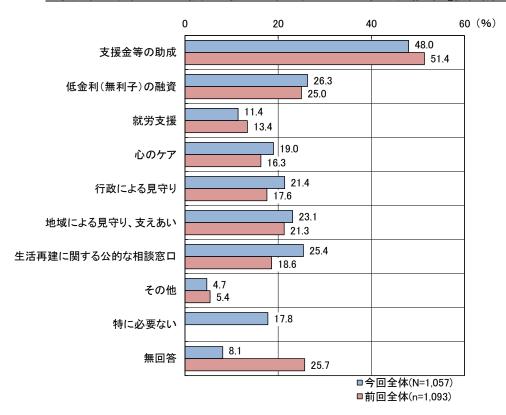
●制度周知への意見:3件

●その他、「就職など優先的にお願いしたい」、「不動産、大家が定期的に建物のチェックをすること」、「公的な液状化対策の実施」、「再開発(中心市街地)や観光施設(お城)の早期完成」などの意見があった。

【集計分析】

住宅再建以外で被災以前の生活に戻るのに必要な支援等は、「支援金等の助成」の回答が 52.2% と最も高く、「低金利(無利子)の融資」(28.6%)、「生活再建に関する公的な相談窓口」(27.6%)と続いている。

図表 住宅再建以外で被災以前の生活に戻るのに必要な支援等【前回調査との比較】



※前回調査では「特に必要ない」の選択肢がなかったため、特に必要ない方は無回答となっている可能性がある。そのため、問25では無回答を含めて比較を行っている。

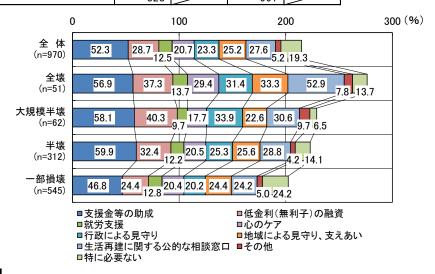
【集計分析】

前回調査と比較すると、今回調査では「支援金等の助成」「就労支援」「その他」以外の支援の割合が増加しており、「生活再建に関する公的な相談窓口」の割合は6.8ポイント増加している。

図表 住宅再建以外で被災以前の生活に戻るのに必要な支援等【り災証明書のり災区分別】

		全	体	全	全壊		莫半壊
	選択肢	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除・無回答
1	支援金等の助成	507	52.3	29	56.9	36	58.1
2	低金利(無利子)の融資	278	28.7	19	37.3	25	40.3
3	就労支援	121	12.5	7	13.7	6	9.7
4	心のケア	201	20.7	15	29.4	11	17.7
5	行政による見守り	226	23.3	16	31.4	21	33.9
6	地域による見守り、支えあい	244	25.2	17	33.3	14	22.6
7	生活再建に関する公的な相談窓口	268	27.6	27	52.9	19	30.6
8	その他	50	5.2	4	7.8	6	9.7
9	特に必要ない	187	19.3	7	13.7	4	6.5
	無回答	78		3		7	
	回答数合計	2,160		144		149	
	回答者数	1,048		54		69	

		半	·壊	一部損壊		
	選択肢	回答数	割合(%)除・無回答	回答数	割合(%)除・無回答	
1	支援金等の助成	187	59.9	255	46.8	
2	低金利(無利子)の融資	101	32.4	133	24.4	
3	就労支援	38	12.2	70	12.8	
4	心のケア	64	20.5	111	20.4	
5	行政による見守り	79	25.3	110	20.2	
6	地域による見守り、支えあい	80	25.6	133	24.4	
7	生活再建に関する公的な相談窓口	90	28.8	132	24.2	
8	その他	13	4.2	27	5.0	
9	特に必要ない	44	14.1	132	24.2	
	無回答	16		52		
	回答数合計	712		1,155		
	回答者数	328		597		



【集計分析】

り災証明書のり災区分別にみると、全壊では「生活再建に関する公的な相談窓口」の割合が5割強となっており、他のり災区分と比べて高くなっている。

問 17 のり災証明書のり災区分別の住宅の再建状況は、全壊の世帯では3割強もの世帯が住宅再建にめどが立っていない。求められている支援としては「支援金等の助成」「生活再建に関する公的な相談窓口」の割合が半数を超えており、今後も引き続き、充実した相談体制が必要なことがうかがえる。

7. その他自由意見

生活再建・住宅再建について、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

【支援制度の拡充関連:78件】

- 大地震直後、駐車場で5日間過ごした。その間支援が全くなかった。支援の仕方を再考お願いしたい。
- ・一部損壊で何の支援も受けられなかった。もう少し広く薄く支援が行き届くように出来ないのか。非常に不満を感じた。
- ・住宅ローン、住宅再建で二重ローンになり、資金が不足。災害義援金、生活支援金とともに公的 支援制度を受けたい。

【一部損壊世帯への支援関連:57件】

- 全国から義援金、物資、食料品等の多大の支援があるのに、一部損壊には全く支援が無かった。
- 一部損壊に対して支援金がひどすぎる。平等に地震を受けたのだから平等に支払いしてほしい。
- •「一部損壊」で公的な支援が得られず補修が手付かずのままの方も多い。温和な支援制度を望む。

【補修等による経済的な不安関連:42件】

- 自宅が傾いているが多額(数百万)の補修費用が必要なため、我慢して住んでいる。ローンが残っており、建替えや住み替えもできない。支援金だけでは何もできない。
- ・自費解体・補修等が高い。地震前十1割程度に業者を指導してほしい。
- 相談するすべがなく解体の予約券をもらっていたが、解体したら家を建てられない状況。

【高齢者・要援護者への配慮や支援関連:30件】

- 障害者が被災した時に避難場所がなく困っている。こんな時は障害者もみんな平等なのでみんな と一緒に指定の避難所に行って下さい。と言われた。その後の対応もあまり変わらない。
- 夫婦(高齢)二人の生活だが、経済的なこともあり、どこまで復旧させるか悩ましい。
- 近所の高齢者、独居の住宅へ業者が訪問している。早口で話し高齢者が理解できないまま契約をしていた。啓発活動を行って頂きたい。

【業者不足や工事金額の高騰、業者の紹介や情報提供関連:23件】

- 住宅の修理・再建を依頼しても人手不足により、一年以上も修理が出来ず大変困った。
- 災害復旧の支援体制の確立が必要(特に瓦・大工・左官等の人手不足)
- ・住宅再建の業者不足で、見積もりから1年過ぎたが動きがない。

【住宅再建関連:21件】

- ・目の届かない所の損傷がどうなのか良くわからない。大きな地震によってどうなるのか大変不安。 台風等の影響が出ないか心配。
- ・みなし賃貸の家に入居中。期限が2年は短すぎる。2年では次の生活への準備ができない(資金、 場所、家)。期間を長くして、次の生活への準備を完全にさせてほしい。
- ・自宅が半壊状態になり、少しずつ運んで片づけているが、本当に大変でなかなか気力がわかなかった。マンパワーの使い方はもっと有効な方法でできたらと思う。

【り災証明の判定や発行関連:18件】

- 査定する人を1組だけでなく違う人(ペア)が違う日に査定する。2~3回は査定してもらいたい。
- ・被害判定で、1次判定と2次判定とで不公平感があるように思う。一部損壊に対する支援をもっと手厚くして欲しい。
- ・り災を「4つ」に分けているのはおかしい。被害の差はあれ皆同じと思う。

【心のケア関連:17件】

- ・市内の精神、心療クリニック・病院ではどれくらい災害後のメンタル心療が受けられるのか全く 不明で不安。
- ・市議の人に話を聞いてほしい。仮設に入ってからは誰一人話を聞きにこない。忘れられたみたい。
- ・震災後気力が落ち、外出等が減り家にこもりがち。

【支援制度等の情報周知関連:16件】

- ・市政だよりのように被災者支援制度の冊子を全世帯に配布してほしい。知らなければ何の支援も 受けられないというのは問題だ。
- 生活再建や一部損壊等で相談する方法が解らなかった。

【不透明、不正、見直しの必要性:14件】

- ・一部損壊世帯でも持ち家(財産)、借家(財産)で同じ扱いはおかしい。持ち家の人に優遇を強く願いたい。借家の人でなぜか震災特需を受けている人がいる。
- 賃貸住宅・生活保護受給者・半壊で義援金を皆受け取れることには疑問を感じた。どう考えても 地震で潤った人がいる。その分益城にまわして欲しかった。
- 最初の判断では一部損壊なのに、強く言って半壊になる人がいる。何も知らず言えなかった、相談しなかった人が、いろんな面で損をしている。

【道路等の補修関連:6件】

- 道路際から人目に見えない崖や石垣の崩れは放置されたまま。雨期の前に災害防止を早急に行ってもらいたい。
- ・住宅再建も大切だが、生活道路の復旧の考慮も願いたい。
- 下水道マンホール陥没補修、電柱の傾き工事を早くしてほしい。

【手続きの簡素化・支給等の迅速な対応関連:2件】

- ・今後の支援制度にはお願いしたいです。
- ・住宅は解体の件で何度も手続きに行くのは高齢者には大変。役所間の手続きは出来ないだろうか?

【その他:88件】

- ・半壊の被害に対して公的な見舞金や税金、医療、廃棄物処理費等々に減免の手厚い処遇を戴き感謝している。
- 災害にどうして行くか取り組みや施策を記録に残して効果などを含めて次に活かして欲しい。
- ・ 地震保険や義援金や支援金を頂き、解体も公費で対応。ローン返済の目処がたったので建替えができ大変感謝している。窓口でも親切に対応して頂いた。

第3章. 資料編

平成 28 年熊本地震にかかるアンケート

平成 28 年熊本地震によって被災された皆様に心からお見舞申し上げます。

本市では、被災者の皆様の一日も早い生活や住宅の再建に向けて様々な相談、支援の受付等を行っているところですが、さらなる支援の充実や今後の支援策の検討を行うため、アンケートをさせていただくことと致しました。

まだ多くの方が、生活再建の途上であろうと存じますが、アンケートの趣旨を御理解のうえ御協力の ほどよろしくお願い申し上げます。

なお、本調査について、御質問等がございましたら、下記の問い合わせ先までご連絡ください。 平成29年6月

熊本市政策局復興総室

◆ 御記入に当たってのお願い ◆

- 1. 質問への回答は、別紙の回答用紙へ御記入ください。
- 2. ほとんどの質問は、回答用紙の当てはまる番号に〇をつけていただくものです。
- 3. いくつかの質問は、その前の質問で、特定の回答を行った方に対してのみ、回答をお願いしている場合があります。
- 4. 質問によっては、1つの選択肢を選ぶ場合や複数の選択肢を選ぶ場合があります。各質問に記載しておりますので、御確認のうえ、御回答ください。
- 5. 各質問で、「その他」を選択した際は、回答用紙のその他記入欄に、具体的な内容をお書きください。
- 6. 複数世帯で同居している場合は、生計を同一にしている場合のみ一つの世帯として御回答ください。
- 7. このアンケートでは、世帯構成や収入等をお尋ねする項目がございます。回答は無記名 であり、個人が特定されることはありません。

アンケート調査票は、り災証明書の世帯主、 もしくは世帯の生計を主として維持している方が御記入ください。

《お問い合わせ先》

熊本市 政策局 復興総室

住 所: 〒860-8601 熊本市中央区手取本町1番1号 T E L: 096-328-2972 F A X: 096-324-1713

《回答期限》

御記入いただきました回答用紙は、同封の返信用封筒に入れて、平成29年6月19日(月)までに 郵便ポストに投函いただきますようお願いします。(切手は不要です。)

※このアンケート調査はり災証明書を発行された世帯を対象に無作為抽出した2,000名の方へ発送しています。

≪ ア ン ケ ー ト 質 問 票 ≫

質問への回答は、別紙の回答用紙に御記入ください。

I ご自身(回答者様)のことについて

- 問1 あなたの性別を教えてください。
 - 1. 男
 - 2. 女
- 問2 あなたの年齢を教えてください。
 - 1. 10代
 - 2. 20代
 - 3. 30代
 - 4. 40代
 - 5. 50代
 - 6.60代
 - 7. 70代
 - 8.80代
 - 9.90代
- 10.100歳以上
- 問3 あなたの現在の職業を教えてください。
 - 1. 自営業
 - 2. 農林水産業従事者(専業)
 - 3. 会社員などの被雇用者(公務員を含む)
 - 4. 無職(年金生活者・学生を除く)
 - 5. 年金生活者
 - 6. 学生
 - 7. その他(具体的にお書きください)

- 問4 現在の世帯全員の合計年収を教えてください。(見込額・概算額で結構です。)
 - 1. 100万円未満
 - 2. 100万円~300万円未満
 - 3. 300万円~500万円未満
 - 4. 500万円~700万円未満
 - 5. 700万円~900万円未満
 - 6. 900万円以上
 - 7. 答えたくない
- 問5 被災時の世帯人数を教えてください。
 - (人数をお書きください)
- 問6 被災時のお住まいの区はどちらですか。
 - 1. 中央区
 - 2. 東区
 - 3. 西区
 - 4. 南区
 - 5. 北区

Ⅱ 被災状況について

- 問7 住居のり災の程度を教えてください。(り災証明書のり災区分)
 - 1. 全壊
 - 2. 大規模半壊
 - 3. 半壊
 - 4. 一部損壊

問8 宅地の被害状況を教えてください。(複数回答可)

- 1. 液状化があった
- 2. よう壁の崩落があった
- 3. 地割れがあった
- 4. その他(具体的にお書きください)
- 5. 特になし ⇒ 問11の質問へ

【問8で「5」以外に回答した方にお尋ねします。】

- 問9 宅地の被害の状況はどの程度でしたか。
 - 1. 住居に被害を与える程度であった
 - 2. 住居に被害はなかったが業者による宅地修復工事が必要
 - 3. 住居に被害はなかったが自らの手で宅地修復作業が必要
 - 4. その他(具体的にお書きください)

【問8で「5」以外に回答した方にお尋ねします。】

- 問10 宅地の修復工事を実際に行いましたか。
 - 1. 行った
 - 2. 行っていない
- 問11 被災時に住んでいた住居について教えてください。
 - 1. 持ち家(一戸建て)
 - 2. 持ち家(マンション等集合住宅)
 - 3. 賃貸住宅(一戸建て)
 - 4. 賃貸住宅(マンション等集合住宅)
 - 5. 公営住宅
 - 6. その他(具体的にお書きください)

問12 現在のお住まいのところ(または居るところ)について教えてください。

- 1. 被災時と同じ住居に住んでいる ⇒ 問15の質問へ
- 2. 被災時と別の住居に住んでいる

【問12で「2」と回答した方にお尋ねします。】

問13 現在住んでいる住居について教えてください。

- 1. 持ち家(一戸建て)
- 2. 持ち家(マンション等集合住宅)
- 3. 賃貸住宅(一戸建て)
- 4. 賃貸住宅(マンション等集合住宅)
- 5. 公営住宅
- 6. 家族、親戚、知人の家
- 7. みなし仮設住宅
- 8. 応急仮設住宅
- 9. その他(具体的にお書きください)

【問12で「2」と回答した方にお尋ねします。】

問14 将来的には元の住所に戻って住む予定ですか。

- 1. そのつもりである
- 2. そのつもりはない
- 3. わからない

Ⅲ 健康状態について

問15 あなたやご家族の現在の健康状態で当てはまるものがありますか。(複数回答可)

- 1. 震災前から持病があり、悪化した
- 2. 震災前は特に病気はなかったが、震災後体調が悪くなった
- 3. 介護が必要な状態になった
- 4. その他(具体的にお書きください)
- 5. 特に問題ない ⇒ 問17の質問へ

【問15で「5」以外に回答した方にお尋ねします。】

問16 かかりつけの医療機関や相談先はありますか。

- 1. ある
- 2. ない

Ⅳ 今後のお住まいについて

問17 住宅の再建状況を教えてください。

なお、本質問における「住み替え」には、応急仮設・みなし仮設住宅は含まないものとします。

- 1. 建替え、購入、補修、住み替えが済んだ(住宅再建済)
- 2. 近く、建替え、購入、補修、住み替えが終わる予定(住宅再建計画済)
- 3. 現在、住宅再建について検討中(住宅再建計画中)
- 4. 今後、住宅再建について具体的に検討予定(住宅再建計画未定) ⇒ 問21の質問へ
- 5. 住宅再建についてめどが立たない

⇒ 問20の質問へ

6. 住宅に被害はなく(小さく)、住宅再建の必要はない

⇒ 問22の質問へ

【問17で「1」「2」「3」のいずれかに回答した方にお尋ねします。】

問18 住宅再建の方法を教えてください。(予定含む。)

- 1. 建替え
- 2. 購入
- 3. 補修
- 4. 住み替え

【問17で「1」「2」「3」のいずれかに回答した方にお尋ねします。】

問19 住宅再建にかかった費用、もしくは見積もり費用はどれくらいですか。

- 1. (1万円単位で金額をお書きください) ⇒ 問21の質問へ
- 2. わからない ⇒ 問21の質問へ

【問17で「5」と回答した方にお尋ねします。】

問20 住宅再建のめどが立たない理由(課題)は何ですか。(複数回答可)

- 1. 住宅再建に必要な資金が不足するから
- 2. 住宅再建に必要な融資が受けられないから
- 3. 現在も住宅ローンを支払い中だから
- 4. 転居(子どもの転校や通勤時間など)に不安があるから
- 5. 再建方法を相談する相手がいないから
- 6. 将来設計が不透明で再建方法を判断できないから
- 7. 公営住宅(災害公営住宅を含む)に入りたいから
- 8. その他(具体的にお書きください)

【問17で「6」以外に回答した方にお尋ねします。】

問21 建替え、補修、住み替え等に要する資金(予定を含む)は何ですか。(複数回答可)

- 1. 自己資金(預金等)
- 2. 義援金、生活再建支援金、応急修理制度、公費解体等の公的支援制度
- 3. 地震保険等の保険金
- 4. 金融機関等からの借り入れ(ローン)
- 5. その他(具体的にお書きください)
- 6. 未定

V 公的支援制度の利用状況

問22 下表のような主な支援制度について、あなたは必要な支援情報を得ることができましたか。

- 1. できた
- 2. できなかった ⇒ 問24の質問へ

支援制度
・災害義援金の支給
・災害見舞金の支給
・被災者生活再建支援金の支給
・災害援護資金の貸付
・ 被災住宅の応急修理
・みなし仮設住宅(民間賃貸住宅の借上げ)
・被災した家屋等の解体・撤去
・こころの健康相談
• 被災者支援無料法律相談窓口
・個人市民税の減免
• 市税の納税の猶予
・ 国民健康保険料の減免
・ 国民健康保険医療費の一部負担金(窓口負担)の免除
・後期高齢者医療保険料の減免
• 後期高齢者医療保険医療費の一部負担金(窓口負担)の免除

【問22で「1」と回答した方にお尋ねします。】

問23 上記の支援制度については、どのようにして知りましたか。(複数回答可)

- 1. 市政だより
- 2. 区役所等の窓口
- 3. 市のホームページ、市の Facebook など
- 4. SNS など
- 5. 市が発行する被災者支援制度の冊子
- 6. テレビ・ラジオ・新聞
- 7. 情報誌 (タウン誌等)
- 8. 近所の方から
- 9. 親戚・知人等から
- 10. 民生委員から
- 11. その他(具体的にお書きください)

VI 今後必要な支援について

問24 住宅の再建に必要な支援は何ですか。(複数回答可)

- 1. 住宅ローン等の優遇など融資制度の充実
- 2. 行政と住宅メーカの協同による低コスト住宅の開発
- 3. 公的支援金等の充実
- 4. 公営住宅の提供
- 5. 住宅再建に関する公的な相談窓口
- 6. その他(具体的にお書きください)
- 7. 特に必要ない

問25 住宅再建以外で震災以前の生活に戻るのに必要な支援や対応は何ですか。(複数回答可)

- 1. 支援金等の助成
- 2. 低金利 (無利子) の融資
- 3. 就労支援
- 4. 心のケア
- 5. 行政による見守り
- 6. 地域による見守り、支えあい
- 7. 生活再建に関する公的な相談窓口
- 8. その他(具体的にお書きください)
- 9. 特に必要ない

Ⅵ その他自由意見

生活再建・住宅再建について、ご意見・ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

御協力ありがとうございました。